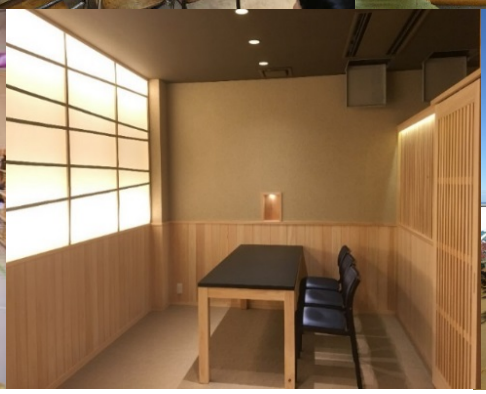
木育をはじめとする
木材利用の普及啓発に関する
事例集



はじめに

林野庁で「木づかい運動」として木材利用の普及啓発を開始して約15 年。同じ頃北海道で「木育」が誕生し、林野庁でも教育活動として取り組んできました。その間、各都道府県等の御協力により、「木育」をはじめとした「木づかい運動」の普及を通じて、消費者理解の醸成が進んできました。現在では、毎年 10 月の「木づかい推進月間」を中心に、全国で、自治体や NPO 法人等各種団体により「木育」等「木づかい」にかかる普及啓発の取組が行われています。

こうした中、各地における取組の中には、今後、木材利用の普及啓発を進めるにあたって、有益なものも多数含まれております。今後、新たに普及啓発の取組を検討、または取組を拡大しようとする団体等の参考とするため、平成 30 年度当初に都道府県を通じて提供された「木育」等の事例を取りまとめました。

今後本事例集の活用により「木育」をはじめとした「木づかい運動」が広がることを期待しています。

林野庁木材利用課

（担当：消費対策班）

目　次

第１部　―20 事例―

	事例名	分類（都道府県）	頁
１	木育マイスターの育成	人材育成（北海道）	2
２	「わんどの木育」普及推進事業	多様な木育（青森県）	3
３	木育を活用した地域による子育ての取組	多様な木育（茨城県）	4
４	木ごころ塾	木工ワークショップ（群馬県）	5
５	ウッドスタートから生涯木育へ	多様な木育（埼玉県）	6
６	県産材こどもの城づくり事業	その他木材を利用した取組（富山県）	7
７	森と人をつなぐプロジェクト	その他木材を利用した取組（石川県）	8
８	木望のまちプロジェクト	その他木材を利用した取組（福井県）	9
９	「伊那市 50 年の森林ビジョン」実現に向けた取組	木育事業（長野県）	10
10	アベマキ学校机プロジェクト	学校机（岐阜県）	11
11	オクシズ材を使った木工ワークショップ	木工ワークショップ（静岡県）	12
12	ウッドトイ・カーニバル	イベント（愛知県）	13
13	はじめよう、ひろげよう、みえの木育	多様な木育（三重県）	14
14	県のウッドスタート宣言	ウッドスタート（滋賀県）	15
15	森を遊びつくす大人旅	大人向け木育（広島県）	16
16	長門おもちゃ美術館	ハード整備（山口県）	17
17	京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）	その他木材を利用した取組（福岡県）	18
18	ながさ木・なごみの街づくり事業	内装木質化（長崎県）	19
19	日南市子育て支援センター	ハード整備（宮崎県）	20
20	木育活動拠点の設置及びメニューの開発・指導	その他木材を利用した取組（沖縄県）	21

第２部　―66 事例―

分類 ..... 頁

１　イベント（13 事例）..... 24
２　ウッドスタート（9 事例）..... 25
３　学習机（7 事例）..... 26
４　人材育成（3 事例）..... 27
５　その他木材を利用した取組（11 事例）..... 28
６　多様な木育（2 事例）..... 29
７　内装木質化（2 事例）..... 29
８　ハード整備（1 事例）..... 29
９　副読本（1 事例）..... 30
10　木育支援（2 事例）..... 30
11　木育知識の普及（3 事例）..... 30
12　木工ワークショップ（12 事例）..... 30

第１部

—20 事例—

木育マイスターの育成
（北海道）

森林内での木育体験実習

＜ポイント＞
・平成17年全国で初めて「木育」を定義。
・確かな知識を身につけられる木育プログラムの開発と木育を普及する人材を育成するために必要となるカリキュラムの作成を経て、平成22年度より、北海道が認定する木育を普及させる専門家として「木育マイスター」の育成を開始。
・木育マイスターを中心に、民間や教育関係機関など多様な主体の参画により木育活動を実施。

＜概要＞
北海道は「木育」の先駆けの地域ですが、その鍵を握るのは、木育活動の企画立案や指導、アドバイス、コーディネイトができる人材です。そのため、北海道では平成22年から独自の研修を実施し、すべてのカリキュラムを修了した受講生を「木育マイスター」として認定してきました。

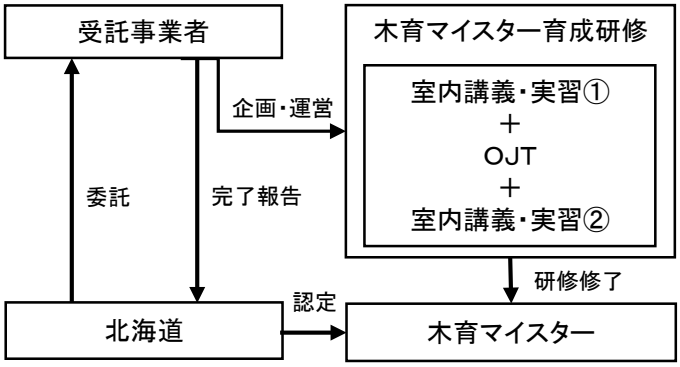
＜きっかけ＞
・平成17年木育という言葉を定義
「子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』取組で、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むこと」
・行政のほか、道内各地で民間の自主的な取組が広がったことから、更なる実践の拡大に向けて、有識者による確かな知識を身につけられる木育プログラムの開発と木育を普及する人材を育成するために必要となるカリキュラムの作成を経て、平成22年度から「木育マイスター育成研修」を開始。

＜目的＞
「木育」の理念を十分に理解し、民間における「木育」活動の企画立案や全体的なコーディネートができ、地域において指導的な役割を果たすことができる人材を育成すること。

＜内容＞
（1）受講者の募集
道内の木育の実践者や木育関連団体への広報を行うとともに、メディアリリースなどで広く一般からも参加者募集。
（2）室内講義及び実習
「木育マイスター育成研修標準カリキュラム」を基準に、研修テキスト「木育達人（マイスター）入門」を使用し2回に分けて実施（全25時間）。
（3）OJT研修
修得した内容を実践するため、研修の1回目と2回目の間に、地域で行われている木育活動を活用したOJTを実施。
（4）認定
すべてのカリキュラムを修了した受講生を「木育マイスター」として認定（北海道知事による認定）。

プログラムや伝え方についての講義

＜実施体制＞



＜今後の展望＞
北海道の木育は「木育推進プロジェクト※」で理念や目指すものとして示された情操教育的な基本的枠組みを残しつつ、行政としての施策の方向（数値的な成果）と、木育マイスターを中心とした民間の取組を、融合させることで発展してきたところ。
こうした木育の取組が地域に定着することで、森林資源の循環利用の推進や産業振興などの具体的な目標に近づくとともに、全国的な木育の動きとのつながりにより、良い相乗効果が得られることを期待。
※「木育推進プロジェクト」
木育の理念づくりや木育を進めていくために必要な施策や取組について、平成16年度に官民協働による検討チームによりとりまとめたもの。

＜関連経費＞
木育推進事業費（道単独 平成30年度9,353千円）
木育マイスターの育成と、多様な主体との連携による木育活動の実施。

＜関連法令等＞
北海道森林づくり条例（平成28年3月最終改正）
北海道森林づくり基本計画（平成29年3月）

＜問い合わせ先＞
北海道水産林務部森林環境局森林活用課
TEL：011-204-5515
HP：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/sky/mokuiku/index.htm
Facebook：https://www.facebook.com/hokkaidomokuiku/

＜ここに注目！＞
木育をはじめた多くの地域がぶつかる課題の1つが、木育の活動を継続・広げるための「人材をどう確保するか」です。木育をいちはやく始めた北海道では、室内講義、実習及びOJTで構成した独自の研修により、そうした人材の育成に早くから取り組み、木育の活動を広げてきました。

「わんどの木育」普及推進事業
（青森県）

＜3つのポイント＞
・「木育キャラバン」をきっかけに木育活動の機運を醸成。
・多様な関係者で「わんどの木育普及推進委員会」を構成し、
　木育の普及方策を検討。
・普及啓発、体験教室、人材育成等にバランス良く取り組んでいる。

「わんど」とは、青森県津軽地方の方言で「わたしたち」を指します。これまで青森県では、植樹・育樹作業や木工教室などの「森林・林業体験」の活動を行ってきましたが、平成26年度からは「木育」という観点からの取組も進めています。未就学児を対象に、県産材のおもちゃなどとのふれあいを通じて木に親しみ、木の良さや利用の意義を学んでもらうための活動を中心に展開されています。

＜きっかけ＞
・「木育キャラバン」の開催（弘前市）。
・弘前市は「木材利用推進基本方針」の中に木育の推進を施策の一つとして位置づける。
・弘前市が、活動の拠点となる「弘前市駅前こどもの広場」を開設。
・中南地域において木育活動を推進する機運が高まる。
・県内全域へ木育を普及するため、中南地域においてモデル事業に着手。

＜目的＞
森林資源に恵まれた青森県において、子どもの頃から木を取り入れた生活の中で、木製玩具を通じて木に親しみ、人と木や森とのかかわり、木の良さや利用の意義を感じることで、森林づくりの大切さを考えられる豊かな心を育むこと。

＜内容＞
1 「わんどの木育」普及推進事業
（1）平成26～27年度（2ヵ年度実施分）
　県の重点事業として、主に未就学児を対象として、木製玩具を活用した木育及び普及啓発を実施。
・「わんどの木育」普及推進委員会の開催（5回）。
・市町村イベント等における「木育」普及啓発（25回：子どもから高齢者までのべ10,600人参加）。
（2）平成26年度実施分
・木育一日体験教室
（25園実施：園児及び保護者1,300人参加）
・木育リーダー育成研修（2回）
（3）平成27年度実施分
・木育モデル園における活動（15回）
・木育手引書の作成及び配布

2 木製玩具を活用した「木育」の推進（平成28年度以降）
「わんどの木育」普及推進事業が好評であったことから、木製玩具を活用した木育及び普及啓発を行った。
・木製玩具の貸し出し
・市町村のイベント等における「木育」普及啓発

＜経費＞
経費：6,471千円（H26：3,078千円、H27：3,393千円）
財源：県単事業費

＜関連法令＞
青森県森林・林業基本方針

＜実施体制＞

「わんどの木育」普及推進委員会
（木製玩具製作者、木育実施者、子育て支援関係者、森林・林業関係者等）

助言↓

青森県
中南地域県民局

協力 ↔

NPO法人 弘前こども
コミュニティ・ぴーぷる

身近な葉っぱを観察

積み木で遊ぶ大人と子ども

＜問い合わせ先＞
青森県中南地域県民局 地域農林水産部 林業振興課TEL：0172-33-3857

＜ここに注目！＞
この取組の中で制作された「こどもたちのための「木育」手引書」は、これから木育をはじめる人の参考になるような活動の進め方やポイントが上手く整理されています。

木育を活用した地域による子育ての取組
（茨城県）

木製こま作り

＜3つのポイント＞
・子育てに悩む母親への支援の1つとして、木育を活用。
・子育て団体が積極的に木育を展開。
・木育を知り、興味をもつ人を着実に増やしている。

本事例は「一般社団法人子育てネットワークままもり」が子育てに悩む母親への支援の一つの方法として、木のおもちゃでの遊びを活用し、子どもの創造力を育んだり、親と子、シニア世代と子どもの交流を促進したり、地域による子育ての推進に取り組んだりしているものです。

＜きっかけ＞
子育て（孤育て）に悩む母親を支援する必要性。支援の一つの方法として木のおもちゃでの遊びを選択。

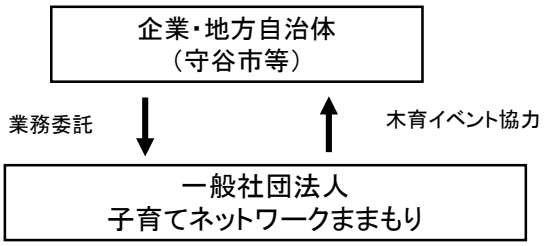
＜目的＞
・子どものストレス緩和、豊かな創造力を育む
・母親の子育てへの支援
・シニア世代との交流
・環境教育、ものづくり、伝統工芸への興味・キッカケ作り

＜内容＞
・木のおもちゃ広場：ショッピングセンターにて年1回開催。2日半で3000人の来場者。
・木のおもちゃ広場mini：月次で子育て支援センター等で開催。毎回20組前後の親子が参加。
・幼稚園、保育所での木育活動：木の積み木、お話組み木、木のマグネット作り等
・森林・林業体験学習：森林環境教育の体験学習を県と連携して実践。間伐材を活用したMY箸作りなどは、地元小学校などに積極的に紹介し、総合学習やイベント等に取り入れられている。
・筑波大学での木育紹介：ゼミの中で30名ほどの学生を対象に木育を紹介。

木製こまで遊ぶ子どもたち

＜問い合わせ先＞
一般社団法人子育てネットワークままもり
TEL ： 050-5235-9954（事務局：今野）
メールアドレス ： info@mamamori.net

＜実施体制＞
東京おもちゃ美術館/地元の里山ボランティア団体/子育てボランティア団体
木材関係団体/森林組合/守谷市/県南農林事務所（林業普及指導員）



＜成果＞
・森林のない守谷市、また近隣エリア（関東平野）だが、木育を知り、興味を持つ人が着実に増えた。
いまや木のおもちゃ広場は毎年楽しみにしている固定ファンも多い。
・木育というツールにより、多世代交流が推進できた。普段子育てにかかわる機会の少ないおじいちゃん達も、木の工作などの遊びを通して、子ども達と自然にふれあい交流することができている。

＜今後の展望＞
茨城県及び茨城県内林業関係者と連携し、活動を推進していく考え。
特に保育所、幼稚園での木育活動は手ごたえを感じているため、出前講座として広げていくこととしている。
また、全ての環境の子どもたちに木育に接する機会が得られるよう、茨城県での出前講座の事業化を働きかけている。

＜経費＞
・緑と水の森林ファンド事業
・茨城県元気な森林づくり活動支援事業
・プロボノワーカーによる営業資料作成事業
・企業等の寄付
・保育所、幼稚園、子育て支援センターでの木育ワークショップ業務委託費
・イベント出展時、木のワークショップ（スプーン作り、木のマグネット工作など）の売上

＜ここに注目！＞
林業関係ではない、子育て関係の団体が木育を推進している点が特徴的です。子育てや多世代交流という文脈で「木育」という手段を活用しています。今後、山側ともつながり活動の幅が広がることを期待します。

木ごころ塾
（群馬県）

＜3つのポイント＞
・教わるだけでなく、自ら制作する本物志向の木工教室。
・全12回/2年の教室を平成20年度から10年以上継続。
・世田谷区と川場村の協定による心と心の交流の場。

木ごころ塾は、木のぬくもりを感じ、確かな手しごとを学べる、初心者向けの木工体験教室です。この塾では、用途や見分け方など、木の特性を知ることから始まり、経験豊かな木工のプロから、加工するための技を学ぶことができます。昭和56年に東京都世田谷区と群馬県川場村が「区民健康村相互協力に関する協定（縁組協定）」を締結したことがきっかけで、このような場が創出されています。

＜きっかけ＞
昭和56年 世田谷区（東京都）と川場村（群馬県）が「区民健康村相互協力に関する協定（縁組協定）」を締結.。
区民と村民の心と心の交流を目的として、様々な交流事業を実施。その交流の場の一つとして、木ごころ塾を開講。

＜目的＞
緑豊かな自然環境の中で、世田谷区民の健康増進及び余暇活動の充実を図る。

＜内容＞
この塾は、木材利用方法や本物志向を追求した木工教室で、木の種類や部位による使い方などを地元の木工職人から学ぶことができ、その知識や技術は家庭での創作機会へと広がり、木材利用促進に繋がる。

・開催場所：利根沼田森林組合（川場村内）
・対象者：16歳以上の世田谷区民・川場村民
・実施回数：年間12回（1年目教室6回、2年目教室6回）
・最大定員：各教室8名
・講座内容（一部）
第1回（5月）木の性質を学ぶ・加工手順を学ぶ
第2回（7月）手道具を学ぶ
第3回（9月）年間課題（イス）づくり

＜関連Webページ＞
http://www.furusatokousha.co.jp/enjoy/kigokoro.htm

＜実施体制＞
主催者：世田谷区、川場村
事務局：（株）世田谷川場ふるさと公社
指導者：利根沼田森林組合

＜成果＞
・過去10年間（平成20年度～29年度）の年間延べ参加者数は447名。
・世田谷区と川場村の交流から、世田谷区内文学館リニューアル時に家具の一部を、講師である利根沼田森林組合の木工職人が手掛けている。

＜経費＞
経費：816,000円（年間講師指導料）
財源：世田谷区から408,000円・参加者負担408,000円
補助率：50%

＜関連法令＞
世田谷区民健康村条例

＜問い合わせ先＞
群馬県川場村 TEL ： 0278-52-2111

＜ここに注目！＞
自然豊かな川場村の人と都会に住む世田谷区民が「ものづくり」を通じて深く交流しています。都市住民が2年間かけてじっくり木に向き合い、自分で作りたいものを、設計からはじめて完成させる「ものづくり」を通じて、木やその地域への愛着が沸いてくるものと思われます。

ウッドスタートから生涯木育へ
（埼玉県秩父市）

イベント出展（企業と共同出展）

＜ポイント＞
・木育キャラバンの1年後に木育推進事業を本格的に開始。
・「木育」は「生産側」と「消費側」をつなげることができる。
・多角的なプログラムの提供や他産業とのコラボレーションを展開。

埼玉県秩父市が取り組む木育推進事業です。秩父市では「生涯木育」をスローガンに掲げ、いつでも、どこでも、だれでも、自然な形で秩父の森林と接点を持つことができるように多角的なプログラムを展開しています。具体的には、ウッドスタート事業をはじめ、出前講座の実施、秩父森づくりの会への支援や秩父市木づかいサポート事業などを行い、「ちちぶの木」のファンを継続的に増やす仕組み作りをしています。

＜きっかけ＞
①平成27年11月木育キャラバンの開催（民間団体主催）。
②森林林業の活性化を目的とする木育事業の展開を検討。
③平成28年３月ウッドスタート宣言
④平成28年度～本格的に木育推進事業を開始。

＜目的＞
木と関わる・触れ合う取組みである「木育」を推進することで、「生産側」「消費側」が一体となって森林・林業や地域について考え、森林・林業の活性化につなげることを目的とする。

＜内容＞
・ウッドスタート（誕生祝い品）事業（平成28年度～）

誕生祝い品プレゼントの様子

・出前講座の実施（随時）
・秩父森づくりの会（間伐ボランティア団体）支援（2回/月）
・秩父市木づかいサポーターズ事業（平成28年度～）

株式会社サイモンズとの秩父市木づかい協定締結式

・介護・リハビリ用品開発支援（平成29年度～）
・ログビルダー養成講座の実施（平成29年度）
その他各種イベントへの出展等

＜実施体制＞
・自治体（豊島区、荒川区、さいたま市、幸手市）
生産側と消費側の交流/木育関連イベントの実施・共同参加/公共施設への木材供給等
・民間団体
①東京おもちゃ美術館：木の誕生祝い品製作監修・納品（業務委託）、木育事業のアドバイス
②一條ランバー株式会社：木育イベント共同参加、秩父市の木のおもちゃを社員の誕生祝い品として採用
③秩父市雇用創造協議会：木製介護・リハビリ用品開発への支援

＜成果＞
・ちちぶ木づかいマップ（秩父地域木工業者リスト）製作。
・森林林業に関するPR パネル（全11 枚）製作。
・「秩父の木が家になるまで」パネル（全3枚）製作。
・「秩父材に生まれ変わる森」動画製作（森の映像祭2018「最優秀賞」受賞）。
・木のおもちゃ3 種「TUMICCO」「ちちぶの幸」「木守りのおうち」の配布及び製品化。
・秩父市木づかいサポーターズ会員証として「ちちぶの木づかいカード」発行（発行数350 枚以上）

＜今後の展望＞
定住自立圏の枠組みを活用し、秩父市単独としてだけでなく、地域全体で木育に取組んでいきたい。

＜経費＞
経費：3,640千円（平成30年度当初予算）
財源：一般財源　639千円
　　ふるさと納税　3,000千円
　　秩父市木づかいサポーターズ寄附金　1千円

＜関連法令＞
秩父市経営方針
秩父市森林整備計画

＜問い合わせ先＞
秩父市環境部森づくり課 TEL：0494-22-2369

＜ここに注目！＞
木育キャラバンをきっかけに、スピード感をもって、本格的な木育推進事業を開始した事例です。様々な角度から事業を実施し、川上から川下の人の交流を促進したり、他産業とのコラボレーションを積極的に行うなど、多様な事業を展開しています。直近では枢（ひつぎ）の試作にも助成するなど、ウッドエンドも進展が見られます。

県産材こどもの城づくり事業
（富山県）

＜3つのポイント＞
・こどもたちから木製遊具のアイデアを募集。
・アイデアを参考に専門家が設計・制作。
・親子向けに「森の体験会」を実施。
　富山の木の魅力や木材の利用の大切さをPR。

「県産材こどもの城づくり事業」は、木とのふれあいを通じて、こども達の豊かな心をはぐくむ「木育（もくいく）」を推進するため、富山県が「水と緑の森づくり税」を活用して行うものです。県内の幼稚園、保育所、認定こども園、地域子育て支援センター、児童館等の「こどもたち」が、県産材を使った木製遊具のデザインや製作に関わったり、「森の体験会」に参加することを通じて、木のやさしさや県産材の利用と森づくりについて理解を深めていただくことを目的としています。

＜目的＞
未来を担う子ども達に「木を使うこと」と「豊かな森を育てること」の繋がりを知ってもらうとともに、その保護者等（住宅購入者の中心である20～30代世代）に、富山の木の魅力や県産材利用の大切さをPRし、木材需要の大半を占める住宅分野での県産材利用促進を図るもの。

＜内容＞
・公募により選定した幼稚園などの施設の子ども達が考えた木製遊具のアイデアを参考に、専門家が県産材大型遊具（面積3㎡、高さ3m程度）を設計・製作。
・制作時には、親子で遊具づくりをお手伝い。親子向けの森林環境教育（森の体験会）を体験。

＜実施体制＞

富山県

↓ 業務委託

NPO法人とやまの木で家をつくる会

＜今後の展望＞
「森の寺子屋」など、フォレストリーダーによる木育を一層推進するとともに、児童館など多くの子供が集まる施設への県産材遊具の導入を支援する。

＜経費＞
経費：8,350千円
財源：水と緑の森づくり税（県費）
補助率：10／10
補助の仕組み・対象内容等：「NPO法人とやまの木で家をつくる会」へ委託

＜関連法令＞
富山県森づくり条例
富山県県産材利用促進条例

＜問い合わせ先＞
富山県森林政策課 TEL ： 076-444-3388
関連URL：https://www.toyamanoki.net/

＜ここに注目！＞
県内の施設で実際に使われる木製遊具のデザインや製作に子どもたちが関わることができる仕組みです。子どもの頃からこのような経験をすることで、その遊具に対する愛着や木に対する関心が高まることと思います。

森と人をつなぐプロジェクト
（石川県）

植樹活動

＜3つのポイント＞
・里山の整備をきっかけに、木材利用の取組の重要性に気付く。
・目的は、環境や人に優しい木質素材を選択できるような意識づくりをすること。
・木育、里山保全体験イベントのみならず、商品開発、商品生産販売も行っている。

企業、NPO、大学、行政、地域住民等の地域の多様な主体の連携の元、里山の保全・活用事業に取り組んでいるNPO法人角間里山みらいが、里山林の再生には森林資源の利用拡大が必要との思いから、森林組合等とも連携し、木育や木製品開発等、木材利用拡大につなげる取組を実施しました。

＜きっかけ＞
環境問題や里山林の再生を目指して整備を進めてきたが、森林資源の利用拡大につなげていかなければ課題の解決や里山林の再生にはつながらないと気付いたこと。

＜目的＞
木育や里山保全体験、木製品の開発を行い、社会が環境や人に優しい木質素材を選択する意識改革を目指す。

＜内容＞
（木育、里山保全体験イベント）
草刈り、植樹、伐採、階段作り、薬草、ビオトープ、畑づくり、歩道整備、木質チップ、薪割り、シイタケ原木づくり、食育、クラフト、木工教室、自然保育、木育キャラバン、森の話
・参加者：延べ6,300名（幼児～シニア）
・時期：5月～3月（34回/平成29年度実施）

木育広場
（夏のイベント）

自然保育

（商品開発）
・毎月定例会議
・4商品の商品開発と試作品製作（テント特許申請中）

（販売）
・薪の生産・販売を開始

＜実施体制＞

NPO法人角間里山みらい（イベント）
金沢産材商品開発委員会（商品開発）
MARUTAN・金沢森林組合（商品生産販売）

↑ 協力

里山保全団体、金沢森林組合、木材業、建築業、大学、幼児教育機関
行政、企業、中山間町会

薪割り体験

＜経費＞
経費：8,500千円
財源：会費、委託費、助成金、寄付金、参加費
補助率：15%
補助の仕組み・対象内容等：いしかわ森林環境基金：指導謝金

＜問い合わせ先＞
NPO法人角間里山みらい TEL ： 076-229-1131
HP ： http://satoyamamirai.jp/

＜ここに注目！＞
多様な主体が連携し、多数のイベントの開催や商品開発等に取組んでいます。イベントにはたくさんの参加者が集まるなど、活動規模が大きいものになっています。

木望のまちプロジェクト
（福井県池田町）

メガジップライン

＜3つのポイント＞
・森林率92%の池田町が仕掛けるまち全体のプロジェクト。
・森や木を使って、子供たちを育む町を目指す。
・まちの山林をアトラクションにした
「Tree Picnic Adventure IKEDA」が壮大。

木望のまち プロジェクトとは、池田町にある森や木の資源や素材を利活用することで、木にふれる豊かな暮らしの創造や、森林環境の保全・育成、若者の雇用や移住・定住の拡大、小さな地域循環型経済を作りだすことを目的としています。その中でも注目したいのが「Tree Picnic Adventure IKEDA」。池田町の志津原エリアの山林に出現する日本最大の冒険の森です。

＜きっかけ＞
池田町では、豊かな自然や風土を活かした個性ある街づくりに取り組んできたが、人口減少傾向に歯止めがかからず、観光客も伸び悩んでいた。これからも町が存続していくために、町に豊富にある森や木を使ってみんながつながる仕組みを作る必要があったこと。

＜目的＞
町の約92%を占める森林や木を活用し、木によって子供たちを育む町にすること。さらには人と人とが木や森でつながっていくような仕組みと施設作りを行うことにより、地域循環型経済の創出、若者の雇用促進、移住・定住、交流人口の拡大を目指すことを目的とする。

＜経費（主なもの）＞
・おもちゃハウスこどもと木：事業費20,106千円
財源：辺地債18,400千円、一般財源1,706千円
・Tree Picnic Adventure Ikeda：事業費754,000千円
財源：辺地債719,000千円、県補助金2,400千円、一般財源32,600千円
・Wood Labo IKEDA：事業費500千円
財源：一般財源500千円

＜関連法令＞
池田町過疎地域自立促進計画

＜内容＞
・おもちゃハウスこどもと木
既存の木工品展示販売施設を、木をふんだんに使って改修し、子供たちが多様な木のおもちゃと出会える場所を整備。

・Tree Picnic Adventure Ikeda
元キャンプ場の施設や周辺の木や森を活かして、森の中で遊ぶ「アドベンチャーパーク」や森を鳥の目線で見下ろす「メガジップライン」などを整備。

・Wood Labo IKEDA
木材加工所にあった子供向けの木工体験施設を、スタッフの手でリフォームし、プログラムの変更を行い、子供だけでなく大人もものづくりを楽しむことができる施設とした。

そのほか、廃校を活用した内装木質化の滞在型宿泊体験施設の整備や薪の販売所（薪の駅）の設置、1歳児に町産ヒノキの積木、小学校入学時に学校で使用する木製机、椅子のプレゼント等を実施

＜実施体制＞
事業主体：池田町
事業及び施設の運営：㈱まちUPいけだ、いけだ農村観光協会
町民の自主的な活動：いけだ薪の会

＜成果＞
・観光入込客数の増加、新しい施設による、雇用の場の確保と、UIターン者、移住定住者の増加、町民同士の交流の増加等
・Tree Picnic Adventure Ikedaについては、メディアに多く取り上げられたことから、池田町の知名度が上がった。

＜問い合わせ先＞
福井県池田町農村政策課（農村観光協会） TEL ： 0778-44-8060
E-mail ： k.morita@e-ikeda.jp
・ツリーピクニックアドベンチャーいけだ
https://www.picnic.ikeda-kibou.com/
・おもちゃハウスこどもと木
http://www.kodomotoki.ikeda-kibou.com/
・ウッドラボいけだ
https://www.woodlabo-ikeda.com/

＜ここに注目！＞
このプロジェクトは、「木や森を活かして地域や人、経済が循環する仕組みを作る」ことに対する全ての取組を指します。年限や実施内容が決まったものではなく、目的を重視する事で活動の幅が広がっています。

「伊那市50年の森林（もり）ビジョン」実現に向けた取組
（長野県伊那市）

＜3つのポイント＞
・ウッドギフトからウッドエンドまでシームレスに事業を展開。
・「山（森林）が富と雇用を支える50年後の伊那市」という基本理念を掲げる。
・地域全体に対して森林・木材への意識高揚を図っている。

本件は、「伊那市50年後の森林（もり）ビジョン」の基本理念である「山（森林）が富と雇用を支える50年後の伊那市」の実現に向けて、伊那市が取り組んでいる木育事業の紹介です。具体的には、木の贈り物を行う「ウッドギフト」、地域材を使用した工作教室や学習机の天板の張替等の「ウッドライフ」、地域材を活用した木棺の制作研究を行う「ウッドエンド」の3つが柱になっています。

＜きっかけ＞
平成28年2月「伊那市50年の森林（もり）ビジョン」策定。
その基本理念である「山（森林）が富と雇用を支える50年後の伊那市」実現に向けた取組

＜目的＞伊那市ソーシャルフォレストリー都市宣言
・市民生活と共生し、市民が活用できる森林（もり）づくりに努める
・市域の持続可能な経済発展を担う林業・木材産業活動を推進
・森林が多面的機能を発揮するための住民参加を推進
・森林資源・人材資源を育て、活かし、利用する循環社会を創出

＜内容＞
＜ウッドギフト＞
①誕生祝品（平成24年度から）
赤ちゃんと保護者に、木のぬくもりを感じ親しんでもらい、植物や自然、環境への意識を育むための取組。

＜ウッドライフ＞
②地域材を使用した工作教室の実施（平成25年度から）
子どもから大人までが、暮らしと木との関わりについて考える習慣や、森林や里山、木に関する様々な知識や経験を、木を使った工作を通じて楽しく身につけるための学習活動。
③親子で校舎内廊下の腰壁板の張り替え（平成26年度から）
④学習机天板張替：市内小学校にて実施（参加者：小学4年生と保護者）（平成26年度から）
⑤地域産材を使用した住宅等の提案
地域材利用促進と、移住・定住の促進を図るため、短期間のお試し暮らしができる「田舎暮らしモデルハウス」と、豊かな自然に囲まれた「サテライトオフィス」を建築。実際に利用してもらう中で、木と地域の良さを感じてもらう。

＜ウッドエンド＞
⑥地域材を活用した木棺の製作研究
「故人と、同じ時間、同じ空間を生きた地域材と旅立ち」に対する地域産材を使用した木棺の製作。カラマツ製、ヒノキ製の2樹種により製品化し販売。

＜実施体制＞
実施主体：伊那市
協力団体：
・ウッドギフト：ユカイナ倶楽部、ウッドフォーラム伊那、地球環境デザインMOC
・ウッドライフ：上伊那林業振興協議会、上伊那森林組合
・ウッドエンド：伊那市地域材利活用研究会

＜経費＞
①経費：3,000千円
財源：地方創生推進交付金対象事業
②経費：425千円
財源：木育推進事業（長野県森林づくり県民税活用事業）
補助率：10/10以内
③経費：3,981千円
財源：長野県地域発元気づくり支援金
補助率：2/3以内
④ 経費：682千円
財源：木育推進事業（長野県森林づくり県民税活用事業）
補助率：10/10以内
⑤経費：3,450千円
⑥経費：2,933千円
財源：平成27年度信州の木活用モデル地域支援事業
（森林づくり県民税活用事業）
補助率：10/10以内、上限2,500千円

＜関連法令＞
伊那市50年の森林(もり)ビジョン推進委員会条例

＜問い合わせ先＞
長野県伊那市農林部耕地林務課林務係 TEL ： 0265-96-8127
URL ：
http://www.inacity.jp/sangyo_noringyo/noringyo/ringyo/moridukuri/50nenmoridukuri.html

＜ここに注目！＞
市が率先して、山林資源を地域で活用させる地域づくりを進めています。市民が一生を通して、様々な場面で木材利用への意識を高められるような活動を展開しています。

アベマキ学校机プロジェクト
（岐阜県美濃加茂市）

・地域の材に着目し、その特徴を活かした天板の制作

・小学生が木から天板になるまでの過程を経験

・毎年、新1年生に贈呈するという継続性のある仕組み

アベマキ学校机プロジェクトとは、美濃加茂市が掲げる「里山千年構想」に基づいた里山資源活用事業の1つです。地域の里山に群生しているアベマキを有効活用することとし、その堅さを活かして、小学校の学校机の天板を制作している。制作にあたっては、高学年生が実際に伐採現場、製材所、乾燥施設の見学をし、完成した天板は、6年生がその過程を伝えながら新1年生に贈呈する仕組みになっている。

＜目的＞

・美濃加茂市の里山には広葉樹が多くあり、その中でも「アベマキ」の自生がとても多く、その「アベマキ」を利用した木製品を作りあげることで「アベマキ」を「美濃加茂市産材」として、そして「美濃加茂市の里山再生の象徴」として広くPRする。

・机ができる過程を知ることや地元の木に毎日触れることで、物を大切にする心・地域の里山を大切にする心、地域の自然に対する心を育むこと

＜内容＞

5年生（22名）：伐倒風景見学

6年生（24名）：製材所や乾燥施設見学、森の授業（森の中で森の働き等を学ぶ）、天板の仕上げ体験、天板の取り付け、新1年生への贈呈（仕組み化）

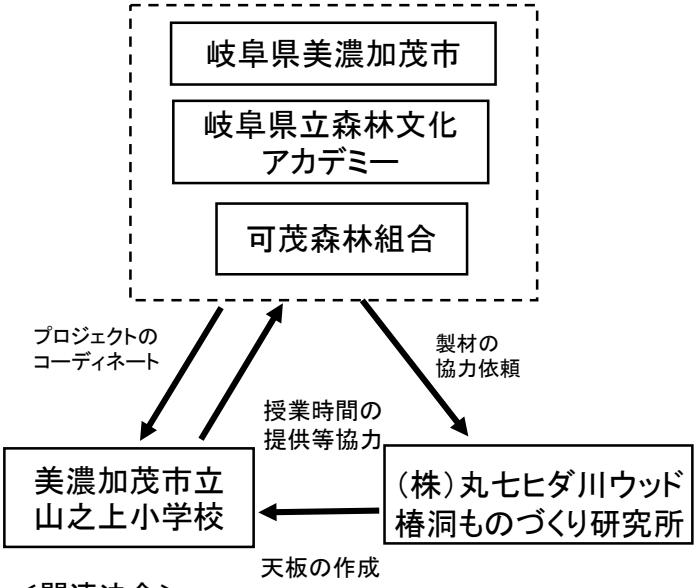
＜成果＞

・アベマキの認知アップ（児童や保護者全員認知）

・（製品がつくられる過程を知ることで）
物を大切にする心が育まれた

・里山を大切にする心が育まれた
（里山を大切にしなければという発言が聞かれるようになった）

＜実施体制＞



＜関連法令＞

里山千年構想

里山基本計画

＜経費＞

経費：113千円

財源：ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業（県環境税）

補助率：1／2

補助の仕組み・対象内容等：アベマキの天板に対する助成

＜問い合わせ先＞

美濃加茂市産業振興部農林課

TEL ： 0574-25-2111（内線331）

http://www.city.minokamo.gifu.jp/shimin/

＜ここに注目！＞

→ 学校机を地域材でつくるというプロジェクトは他地域でもありますが、小学生が伐採現場・製材所等の視察をしっかり行った上で天板づくりをするという例はあまり多くありません。手間はかかるかもしれませんが、こども達がどこの山から搬出した材で学校机が作られたのかを知り制作に携わることは、非常に有意義な木育体験だと思います。

オクシズ材を使った木工ワークショップ
（静岡県）

木のウインドチャームづくり体験

＜3つのポイント＞
・静岡伊勢丹とのコラボレーションで地域材をPR。
・地域材の知識をあまり持たない新たな層に訴求。
・毎年違った切り口で体験や装飾を展開。

静岡伊勢丹が毎年主催している「グローバル・グリーン・キャンペーン」において、静岡市林業研究会（以下、市林研）と林業女子会＠静岡が協力し、奥大井、奥藁科、阿部奥、奥清水の4つの地域をさす「オクシズ」の魅力を発信する体験イベントを企画しています。
第1回目の2016年においては、きこり体験や木のウインドチャーム・オリジナルフォトフレームづくり体験を実施。第2回目の2017年には、伊勢丹の正面玄関においてオクシズ材を使った装飾ブースや鉛筆・名刺づくり体験を実施しました。

＜きっかけ＞
①静岡伊勢丹が県産材の魅力を発信する「グローバルグリーンキャンペーン」を企画。
②静岡伊勢丹が静岡市林業研究会及び林業女子会＠静岡に対して、来場者が県産材を手に取り、触れ、体験するイベントの実施協力の依頼。
③市林研メンバーが市街地活性化団体へ加入した事から、市林研と静岡伊勢丹が関係性を構築。

＜目的＞
・木にふれる機会を提供する。
・地域材（オクシズ材）をPRする。
・子どもへの啓発と共に、一緒に来店する親への啓発を行う。
・静岡市林業研究会・林業女子会＠静岡の活動をPRする。

＜内容＞
・オクシズ材を使ったオリジナルの木の鉛筆と名刺作り：好きな枝を選んで鉛筆や木を薄くスライスした名刺を作る。
・1階正面玄関にオクシズ材を使用した装飾ブースを設置。気持ちがなごむオクシズの音が愉しめる仕掛けになっている。

＜実施体制＞

静岡伊勢丹
（主催）広報・会場準備

協力依頼 ↓　　↑ 協力

市林研・林業女子会
イベント運営・材料準備

体験イベントの様子（手前きこり体験）

＜成果＞
・子どもだけではなく、親又は祖父母と共に来場するケースが多かったため、子どもがワークショップをしている間に地域材や団体について説明する時間を設けることができた。
・林業関係のイベントの場合、林業や木材にもともと関心の高い層が来場する傾向にあるが、本事業は、伊勢丹という百貨店に買い物を目的として来場した人を相手にするため、地域材の知識をあまり持たない新たな層への情報発信・啓発をすることができた。

＜課題＞
・鉛筆づくりなどは、子供にはやや難しいため、スタッフがかかりきりになってしまい、一度に対応できる人数が限られる。
・地域材や種子類等と、デコレーションに用いる装飾品とのバランスが難しい。

＜今後の展望＞
静岡伊勢丹は、地域と連携する意識が高く、連携がスムーズに進んだ。今後も機会があれば活動を続けていきたい。

＜経費＞
（静岡市林研）
経　費：28,000円
財　源：静岡市林業研究会予算
（林業女子会＠静岡）
経　費：50,000円
財　源：自費、伊勢丹からの謝金（ワークショップ参加費分の売上げ及び材料費分）

＜問い合わせ先＞
（静岡市林研事務局（静岡市森林組合内））
TEL ： 054-278-3141
（林業女子会＠静岡）
E-mail ： fg.shizuoka@gmail.com
URL ： http://fgshizuoka.com/

＜ここに注目！＞
静岡伊勢丹という百貨店とのコラボレーションが実現でき、これまでリーチできていなかった方々に対して、地域材に触れる機会を提供しました。このことは静岡市林業研究会や林業女子会＠静岡をはじめとするプレイヤーが、木材利用になじみの薄い層の興味を引くイベントを展開するための工夫を凝らしたからこそできたのではないかと感じました。

ウッドトイ・カーニバル
（愛知県豊田市）

＜3つのポイント＞

・20種類もの親子で参加できるユニークなブース。

・回遊性を高めるためにスタンプラリーを実施。

・19団体もの協力。団体同士の交流も促進。

ウッドトイ・カーニバルとは、とよた地域材利用促進協議会が主催する「木であそぼう！木でつくろう！」をテーマにした木育イベントです。

豊田森林組合の協力による木育遊具やボールプールでの遊びの場、木でオリジナルの時計を作成するワークショップ、自然がたっぷり詰まったフォトブースでのプロによる写真撮影「恋する森の写真館」など20種類のユニークなイベントが2日間にわたり開催されました。

＜きっかけ＞
地域材の利用促進のためには「木の良さに触れる機会を創出すること」が重要であり、親子で参加できる木育を切り口にしたイベントが効果的であると考えた。

＜目的＞
・子育て世代に向けた地域材の利用促進
・地域の木材・木育関係者の交流
・地域の任意団体間（子育て団体・木工ボランティア団体等）のマッチング

＜主催＞
とよた地域材利用促進協議会

＜協力団体＞
NPO法人芸術と遊び創造協会・東京おもちゃ美術館／豊田森林組合／愛知県森林組合連合会／有限会社ナチュラルパートナーズ／糸のこアート／木製オルガン／エコット／Itam／ヒトトキ／ken 工房／ワンビジョン／愛知県豊田加茂農林水産事務所／フォレスト工房／組手什おかげまわし東海／ウッディーラー豊田／市民活動センター

＜会場協力＞
豊田まちづくり株式会社／株式会社大丸松坂屋百貨店松坂屋豊田店／とよた子育て総合支援センターあいあい

＜経費＞
豊田市費　2,776,736円（負担金）

＜関連法令＞
豊田市森づくり条例

＜問い合わせ先＞
愛知県豊田市森林課 TEL：0565-62-0602
FAX：0565-62-0612
Mail： shinrin@city.toyota.aichi.jp

＜内容＞2日間にわたり20種類ものブースが出展された。
・木育遊具（協力：森林組合）
けんけんぱ、トンネルベンチ、すべり台、うんてい、ジャングルジム等豊田市産材を使用した遊具で木と触れ合いながら遊ぶ。

・恋する森の写真館（協力：ワンビジョン）
自然がたっぷり詰まったフォトブースでプロカメラマンによる写真撮影。

・カンナワークショップ（協力：Itam）
鉋の削りくずで作ったフラワーを用いてアレンジメント・カンナ体験ができるワークショップ。

＜ここに注目！＞
木の玩具で遊ぶというのは、木育イベントの定番ですが、ウッドトイ・カーニバルでは、森のフォトブースやカンナの削り屑を利用したフラワーアレンジメントなど、とてもユニークで、楽しいブースがたくさんあります。

はじめよう、ひろげよう、みえの木育
（三重県）

ミエトイ・キッズスペース

＜3つのポイント＞
・「人づくり・ものづくり・場づくり」の3要素をバランス良く推進。
・森林環境教育、木育、森づくり活動のワンストップ窓口を設置。
・県、市町、民間企業、それぞれが連携しながら木育を推進。

「はじめよう、ひろげよう、みえの木育」は、平成26年度に導入した「みえ森と緑の県民税」を活用して、三重県が平成27年度から進めている木育事業の総称です。
県が率先して木育事業に取り組むことで、市町や事業者の取組が自発的に進んでいくことを期待しています。

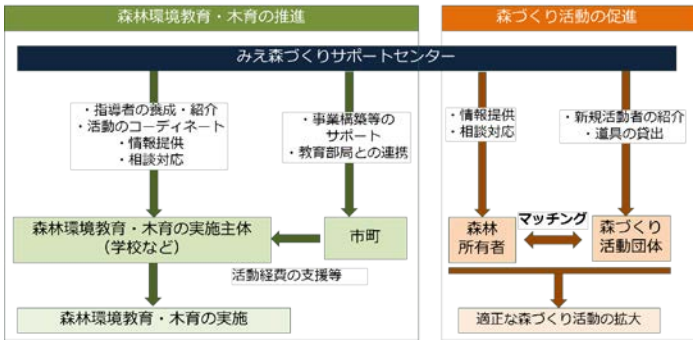
＜きっかけ＞
①平成26年度「みえ森と緑の県民税」導入。
②平成27年度より同税を活用して本格的に木育を推進。
三重県内の17市町において62の木育事業が取り組まれた。

＜目的＞
・木づかいで、子どもの感性を磨く。
・森林を学ぶ機会の場の創出。
・県産材の有効活用。

＜内容＞
フェーズを分けて段階的に木育事業を実施。

（県の実施事例）
平成27年度
フェーズ1　キックオフシンポジウムの開催
フェーズ2　ミエトイ・キャラバン
　県が開発した遊具、または県内事業者が製作した県産材遊具や玩具を活用し、大規模集客施設やイベント会場等で木育体験イベントを実施。
フェーズ3　ミエトイ・キッズスペースの開発

平成28年度
フェーズ4　みえ森づくりサポートセンターの設置
　森林環境教育や木育など活動支援のワンストップ窓口



＜関連Webページ＞
http://www.pref.mie.lg.jp/common/05/ci400000582.htm
https://www.facebook.com/mieshinrin/

（県×市の連携事例）※県は企画や事業化のアドバイス
・木育トレイン（伊賀鉄道の車両木質化）
みえ森と緑の県民税市町交付金を活用

（県×民間事業者の連携事例）
・みえの木ひろば（三重県産材を活用した木製遊具の設置（2か所））自社の経費で実施。

＜今後の展望＞
・木育を進める3つの要素（人づくり・ものづくり・場づくり）をバランスよく進めるとともに、市町における取組がより一層進むよう支援を行う。
・木製遊具などが常時体験できる場の整備を進めていくことを検討。

＜関連法令＞
・みえ森と緑の県民税条例
・三重の森林づくり条例
・三重の森林づくり基本計画

＜問い合わせ先＞
三重県農林水産部みどり共生推進課　TEL：059-224-2513

＜ここに注目！＞
一般の方からすると区別がしづらい、森林環境教育や木育、森づくり活動の支援を行うためのワンストップ・ハブ機能を持つ「みえ森づくりサポートセンター」を設立されているところや木育事業をフェーズに分けて着実にステップアップされているところに注目しました。

県のウッドスタート宣言
（滋賀県）

＜3つのポイント＞
・全国に先駆けて県がウッドスタート宣言。
・市町や保育園等による「ウッドスタート」の取組を支援。
・ウッドスタート宣言に合わせて開催した「木育シンポジウム」は満員。

滋賀県では、平成27年に琵琶湖森林づくり事業として「ウッドスタート支援事業」に取り組みはじめ、これまで県内の民間企業のウッドスタート宣言の立ち会いや木育円卓会議の開催をしてきました。そんな滋賀県が全国の都道府県ではじめて平成29年3月22日に「ウッドスタート宣言」行いました。

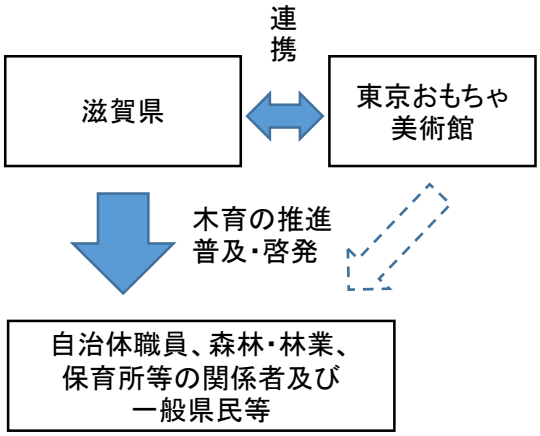
＜きっかけ＞
①平成27年度から琵琶湖森林づくり事業による「ウッドスタート支援事業」を実施。
②平成27年12月に、草津市に本社を置く（株）GRiP’Sが東京おもちゃ美術館との間で、知事立会のもと、県内初となる「ウッドスタート宣言」に調印。県でも「木育円卓会議in滋賀2015」を開催。
③平成29年２月23日に、東京都江東区で開催された「第４回木育サミットin江東区」にて、知事がウッドスタート宣言することをビデオメッセージで表明。

＜目的＞
東京おもちゃ美術館と連携して、県の「木育」の取組をさらに進めていくとともに、この取組を全国に情報発信していく。

＜内容＞
平成29年３月22日に、全国の都道府県ではじめての「ウッドスタート宣言」を行い、全国で木育活動に取組む東京おもちゃ美術館との間での調印式を執り行った。
同年９月15日には、シンポジウムを開催し、木育実践者によるパネルディスカッション等を実施。自治体職員、森林・林業、保育所等の関係者及び一般県民等で会場は満員となり、県内の木育の取組事例に聞き入った。

滋賀県木育シンポジウム

＜実施体制＞
・滋賀県（東京おもちゃ美術館と連携）



木育円卓会議in滋賀2015

＜関係法令＞
琵琶湖森林づくり基本計画
しがの林業成長産業化アクションプラン

＜経費＞
平成30年度 木育推進事業　2,618千円

＜問い合わせ先＞
琵琶湖環境部森林政策課 TEL ： 077-528-3915

＜ここに注目！＞
全国のさまざまな市町村で「ウッドスタート宣言」がなされていますが、都道府県レベルでは初めて滋賀「県」がウッドスタート宣言をしました。平成27年度に「ウッドスタート支援事業」を開始した滋賀県。その2年後にはウッドスタート宣言することで、県が木育の取組をさらに推進することを表明しています。このエリアでの木育の広がりが期待されます。

森を遊びつくす大人旅
（広島県）

グランピング体験

＜3つのポイント＞
・森を遊びつくす、大人向けの木育企画。
・旅を通じたさまざまな出会い、地域への移住や転職を促すことも狙う。
・参加者がほぼ全員「大変満足」との評価。

森をあそびつくす大人旅は、森の仕事・ジビエ・ゆれる炎・楽しい会話・グランピング・ものづくりをキーワードにした1泊2日の旅の企画です。これまで森の体験や木育は子ども向けのものがほとんどで、大人が木材の生産現場から利用までの過程を学ぶことができる機会がほとんどない中、この企画では大人がゆったりとした時間の中で、森や木について学ぶことができ、さらには地域の良さを実感することができる工夫がされています。

＜きっかけ＞
・広島県が中山間地域の未来に向けた取組を支援
・「さとやま未来博ココロザシ応援プロジェクト」を実施
・木工所を経営し、木育に取り組んでいる会の代表である寺河氏が、知識として知ってはいても、実際に体験したことのない仕事を、体験したいと常々考えていたこと。

＜目的＞
森の体験や木育プログラムは子ども向けのものがほとんどで、大人が森とその資源が生まれるところから、加工され、自分たちが使用するところまでの流れを学ぶものがほとんどない。
そこで、森や山の資源がどのように生産されているのか、その資源をどのように活用していくのかを体験や交流を通して伝え、林業や木材、ジビエなどの産業に対する興味を喚起し、近い将来、中山間地域への移住や転職のきっかけとなることを目的とする。

＜内容＞
森の恵みと暮らしを楽しむ1泊2日の大人旅。
（森の仕事、ジビエ、ゆれる炎、楽しい会話、グランピング、ものづくりを要素に取り入れた。具体的には、伐倒見学・3倍力綱引き体験・チェーンソー製材体験・焚火・竹きのこパンづくり・木のスプーンづくり・バームクーヘンづくり・石窯ジビエピザ・地酒・地ワイン・クロモジ茶・木工体験・鹿皮とヒノキの名刺入れづくりを行った。）

伐倒見学

木工体験　イス・木箱など

鹿革と木の名刺入れ

ジビエ

＜実施体制＞
（主催）
・森を遊びつくす大人旅実行委員会
（協力団体）
・有限会社一場木工所
・NPO法人ワーカーズコープ木こり屋ブンブンバウム
・株式会社エージェントゼロ
・ONE TWO MUSIC
・有限会社みわ375
・広島ふるさと村みわの里
・スペシャルきのこマイスター・藤原明子
・ハンドメイド作家Shinorin
・薪ライフ
・ワインソムリエ

＜成果：参加者アンケート結果（参加者16名）＞
・今回の体験に満足か？大変満足15名/満足1名
・次回参加したいか？参加したい16名

＜今後の展望＞
体験内容はある程度パッケージ化し、インバウンド向けの「コト消費」に繋がるよう、バリエーションを加えたものを提供していきたい。

＜経費＞
経費：1,013千円
財源：さとやま未来博ココロザシ応援プロジェクト
補助率：1/2 （上限50万円）

＜問い合わせ先＞
森を遊びつくす大人旅実行委員会（代表：寺河） info@hinata.life
森を遊びつくす大人旅HP：
http://moriasobiotonatabi.strikingly.com/

＜ここに注目！＞
森のことに関心がある大人は一定数いるものの、大人向けの木育プログラムは非常に少ないです。この企画では、規模は小さいながらも、参加者の満足度が高い内容になっており、大人向けの木育プログラムとして参考になる事例だと思います。

長門おもちゃ美術館
（山口県）

＜3つのポイント＞
・「林業・木材産業の発展」と「子育て世代に選ばれるまちづくり」の拠点を目指した施設整備。
・行政主導でなく、市民全体で機運を醸成。
・400万を集めたクラウドファンディングではキッズクルーズ船を整備。

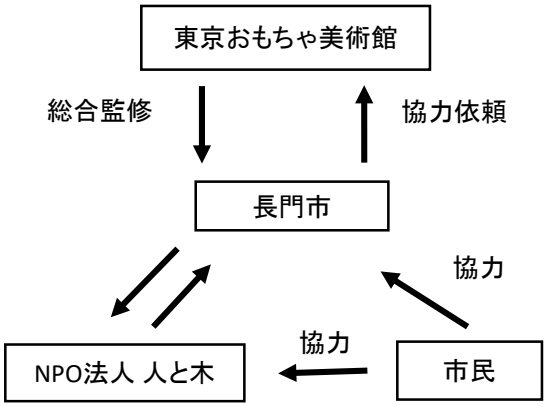
長門おもちゃ美術館は、長門の海を楽しめるキッズクルーズ船や地元材を活用した空間を活かして、海や山に恵まれた自然や文化を伝える地域交流の拠点となることを目指して設立されました。館内では、木のおもちゃで遊んだり、木育ワークショップに参加したりすることができ、親子をはじめ多世代の交流ができる場所となっています。

＜きっかけ＞
・平成28年５月に木育を通じて地域活性化に寄与することを目的にNPO法人人と木が設立。
・NPO法人人と木と長門市と東京おもちゃ美術館が協働し、平成28年11月にウッドスタート宣言を行い、公民連携で木育事業を推進してきた。

＜目的＞
「林業・木材産業の発展」と「子育て世代に選ばれるまちづくり」をしていくために必要な施設整備に取り組むことで、持続可能な地域にしていくこと。

＜内容＞
・長門おもちゃ美術館の建設。
・クラウドファンディングによるキッズクルーズ船の整備。
・ボランティアスタッフ育成研修を実施（3回：参加者計99人）。
・市内小中学校にて木育ワークショップを実施・施設内に展示する木のたまごプール（約3,000個）を製作。
・美術館スタッフの雇用及び研修を実施。
・第２回木育キャラバンinながとを実施。

＜実施体制＞



＜関係法令＞
長門市林業・木材産業振興大綱
木育推進基本計画

＜経費＞
経費：約123,000千円
財源：地方創生拠点整備交付金（木育推進拠点施設整備）地方創生推進交付金（スタッフ育成等の運営体制の整備）いずれも単独市費、補助率：1/2

＜成果＞
・クラウドファンディングでは400万円以上の支援を獲得
・約100名のおもちゃ学芸員によるボランティアスタッフを確保
・第２回木育キャラバンinながとにおいて２日間で4,000人の来場

＜今後の展望＞
・「長門おもちゃ美術館」から長門市の木育を市外へ波及させていくための取組みを実施していく。
・長門市の木育を市外へ波及させ、周辺地域への人の流れをつくりながら、長門市にさらに人が来ることを目指す。

＜問い合わせ先＞
長門市経済観光部農林課林務係 TEL ： 0837-23-1142
長門おもちゃ美術館 TEL ： 0837-27-0337
URL ： http://www.nagato-toymuseum.com

＜ここに注目＞
行政と民間（NPO法人）、市民が上手く協働して成功させた大プロジェクト。このような協働の形や、「一口館長制度」に基づくお金の寄付と、ボランティアスタッフである「おもちゃ学芸員」の時間の寄付による運営手法は施設整備以外の取組にも参考になります。

京築のヒノキと暮らすプロジェクト（ちくらす）
（福岡県）

京筑ヒノキのオリジナル商品を提案するコンペ

＜3つのポイント＞
・「京築ヒノキ」の新たな使い方による他産地との差別化プロジェクト。
・国・県・市町・森林組合による協議会と2大学との連携が実現。
・デザインを学ぶ学生によるコンペを実施し、オリジナル商品を開発。

京築のヒノキと暮らすプロジェクトは、福岡県東部に位置する行橋市、豊前市、京都郡苅田町、みやこ町、築上郡吉富町、上毛町、築上町の2市5町で構成されている「京築」地区の「ヒノキ」の利用推進を目的に、地区内の西日本工業大学、隣接する北九州市の西南女学院大学と連携して実施したものです。具体的には、伐採現場の見学会をはじめ、座学、京築ヒノキのオリジナル商品を提案するコンペの開催・優秀作品の試作、そして活動の展示を行いました。

＜きっかけ＞
①京築地区森林・林業推進協議会は、特に“京築ヒノキ”の利用推進に力を入れて、木工教室などの木育活動や公共施設等での木製品の展示を行っている。
②プロジェクト立ち上げ当時、京築ヒノキのオリジナル商品は少なく、他産地との区別なく安価で流通している状態にあったため、京築ヒノキの良さを生かした新たな使い方を提案することで差別化を図りたいと考えた。
③京築地域内の西日本工業大学、隣接する北九州市の西南女学院大学に地域の現状を相談したところ、大学側も地域の課題解決に繋がる活動に意欲的であったため連携して活動することになった。

＜目的＞
家具や木製品等のヒノキの新たな使い方を提案することで、良質な京築ヒノキが高く評価され、森林整備の推進、枝打や間伐等の適切な実施による良材生産意欲が向上することを目指す。

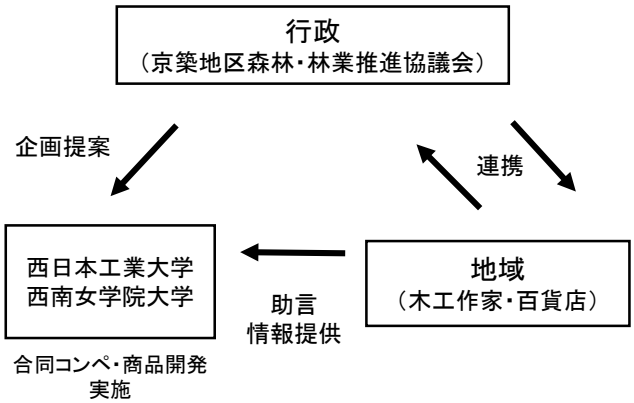
＜内容＞
・現地見学及び座学：大学生に向けて、伐採現場の見学会を開催後、森林・林業・木材に関する基礎知識を解説。
・合同コンペの開催・試作：コンペテーマを設定し、デザインを学ぶ各学生による1人1案の発表。審査で優秀作品を製作する。平成29年度は2回開催。

制作物（ベンチ）

・活動の展示：
[平成29年度]5月2日～7日　展示場イベントへの出展
3月14日～20日 地域の百貨店内での展示
[平成30年度]4月17日～22日　イタリア・ミラノで展示

地域の百貨店内での展示

＜実施体制＞



＜今後の展望＞
現在製作している名刺入れを販売し、収益を研究費に還元する仕組みをつくることで、京築ヒノキの商品開発の一連の流れ（企画→コンペ→試作→展示→製品化→販売）を継続する体制としたい。
京築ヒノキに関する問合せも増えてきており、森林所有者の良材生産意欲の向上につなげていきたい。

＜経費＞
京築地区森林・林業推進協議会
　財源：管内市町、森林組合負担金
　対象：会議開催、製品試作、交通費など
　予算：例年30万円～40万円程度
西日本工業大学研究費
　財源：大学研究費及び文部科学省（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）

＜問い合わせ先＞
福岡県行橋農林事務所 TEL ： 0930-23-0388

＜ホームページ＞
https://chikurasu.jp

＜注目ポイント＞
問題意識からプロジェクトの設計、業界外を巻き込んだ実施体制づくり等が参考になります。3年の商品開発を経て、最終的には、イタリア・ミラノで開催された「JAPAN DESIGN WEEK IN MILANO 2018」に出展するなど、大学生の活躍により京築ヒノキが世界にはばたきました。

ながさ木・なごみの街づくり事業
（長崎県）

木質化されたホテルのレストラン

＜3つのポイント＞
・ながさき森林環境税を活用した民間事業者への支援
・PR効果の高いスペース等の木質化・木製品を整備
・県民がなごめる場所を提供し、県産木材の利用促進

ながさ木・なごみの街づくり事業では、不特定多数の県民の方々が利用できる、民間の銀行、郵便局、店舗、宿泊施設、交通機関（待合所等）、学校、幼稚園、保育所、病院などの施設において木質化及び木製品に県産木材を設置する取組を支援するものです。

＜目的＞
県産木材の利用を促進するために、民間のPR効果の高いスペース等において、木質化及び木製品を県産木材で整備する場合の取組を支援します。

＜実施体制＞

長崎県

審査
補助金交付 ↓

↑ 申請
事業実施

民間事業者
法人登記されていて、
民間のPR効果の高いスペースの所有者等

＜補助対象・補助率＞
〇補助対象：資材費と労務費及び諸経費の合計
〇補助率：1/2以内　下限50万円　上限200万円

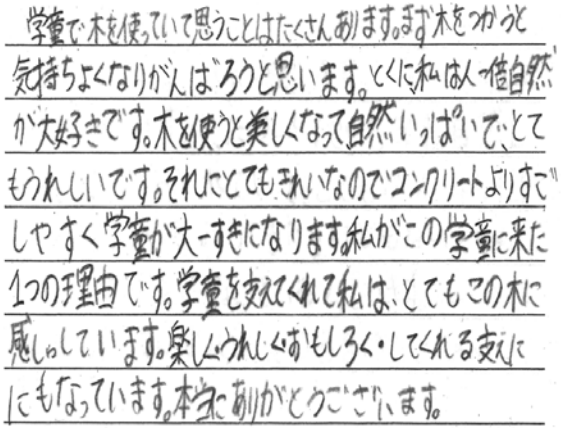
＜成果＞
県産木材を使用した明るく、なごめるスペースを県民の方々に提供し、県産木材に親しみながら、県産木材に関心をもっていただいています。
〇H29　4施設
　宿泊施設（1箇所）：木質化・木製品の整備
　銀行（3箇所）：木製品の整備
〇H30　7施設
　店舗（4箇所）：木質化・木製品の整備
　宿泊施設（2箇所）：木質化・木製品の整備
　学校　就労支援施設（1箇所）：木質化

＜展望＞
本事業をきっかけに、民間の建築物にも木質化や木製品の設置、さらに木造化につながることを期待。

＜関連法令＞
ながさき森林環境保全事業補助金実施要綱
ながさ木・なごみの街づくり事業実施要領

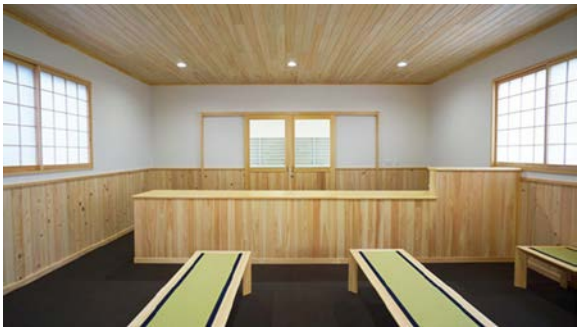
＜問い合わせ先＞
長崎県農林部林政課 TEL ： 095-895-2988

H29銀行　木製品



学童で木を使っていて思うことはたくさんあります。まず木をつかうと気持ちよくなりがんばろうと思います。とくに私は人一倍自然が大好きです。木を使うと楽しくなって自然いっぱいで、とてもうれしいです。それにとてもきれいなのでコンクリートよりすごしやすく学童が大すきになります。私がこの学童に来た1つの理由です。学童を支えてくれて私は、とてもこの木に感しゃしています。楽しくうれしくすごしろく・してくれる支えにもなっています。本当にありがとうございます。

木造の学童施設で過ごす児童からの感想



H30店舗（調剤薬局）木質化・木製品

＜ここに注目！＞
実際にホテルのレストランや銀行の待合スペース等公的スペースで多くの人に県産材製品を長く使ってもらうことは、県民になごめる場を提供し、効果の高いPR方法だと思います。

日南市子育て支援センター
（宮崎県）

かんなくずでミニフラワー作り

＜3つのポイント＞
・子育て支援センター建設のコンセプトは「木育推進」。
・木育ワークショップを何度も開催するなどソフト面が充実。
・子どもが「ことこと」に行きたがるなど利用者の評価が高い。

日南市子育て支援センター「ことこと」は、木のぬくもりを感じ、木の香りに包まれながら、おしゃべりしたり、いろいろな木のおもちゃで遊んだりすることができる施設です。
平成27年に飫肥杉の産地である日南市が「ウッドスタート宣言」を行い、市民を巻き込んだワークショップを17回開催しながら、子育てと木の関わり合いを考えていく中で、木育を効果的に実施できるような子育て支援センターが完成しました。

＜きっかけ＞
①中心市街地活性化事業
市民からの子育て支援施設の要望（アンケート）
→商業地域における子育て環境の充実を図ることに。
②平成27年日南市「ウッドスタート宣言」

＜目的＞
・幼少期から木に触れ、木を好きな人を育てること。
・快適な子育て木質空間として、交流の場になること。
・人が集まる波及効果として、商業地域の活性化を図ること。

＜施設＞
赤ちゃん広場、森のステージ、ごっこ遊びコーナー、手作りおもちゃ、絵本コーナーなど、子どもの遊び場の他、休憩、情報閲覧コーナーなど、保護者が利用するコーナーも木質化している。
延べ面積：564㎡
主な使用木材：飫肥杉

＜取組＞
・第1回木育ワークショップ（飫肥杉ペンダント作り）
　参加人数：29名（親子7組）
・第2回木育ワークショップ（クリスマスツリー作り）
　参加人数：19名（親子7組）
・第3回木育ワークショップ（ミニフラワー作り（かんなくず））
　参加人数：8名

クリスマスツリー作り

＜関連Webページ＞
HP ： https://www.city.nichinan.lg.jp/main/life/medical-list/child/page000083html
Facebook ： https://ja-jpfacebook.com/nichinan.kotokoto

＜課題＞
・木のおもちゃの修理ができる人材と費用の確保。
・「ことこと」独自の木育サポーターの養成。
・アンケート調査等を実施し、要望に応じたワークショップの開催。
・県の木育サポーターとの情報交換や連携。
・子育て支援と木育を両立させる実施体制の整備。

＜実施体制＞

日南市
↓
日南市子育て支援センター
（正規保育士4名　嘱託保育士4名　再任用保育士1名）

＜関係法令＞
日南市中心市街地活性化基本計画

＜経費＞
（施設整備）
整備年度：平成27年度（設計）平成28年度（工事）
経費：160,070千円
設計・管理費：18,201千円
工事費：：141,869千円
財源：交付金　71,200千円
　　起債　79,900千円
　　一般財源　8,970千円
（運営）
日南市一般財源 17,213千円（H29当初予算ベース）

＜問い合わせ先＞
日南市子育て支援センター TEL ： 0987-27-3808

＜ここに注目！＞
子育て世代の親子にとって非常に重要な存在である子育て広場。その施設に「木育」の要素がとりいれられたことで、子育て世代が日常生活において木との関係性を育むことにつながっています。施設完成前から、市民を巻き込んだワークショップを何度も開催することで、その関係性が深まっているように感じます。

木育活動拠点の設置
メニューの開発・指導
（沖縄県）

木育出前講座

＜3つのポイント＞
・木育を「触れる」「創る」「知る」の3ステップに分けて推進。
・林業事務所の林業普及指導員が木育出前講座を実施。
・講座で実施する新規メニューの開発や拠点の設定を行った。

沖縄県中南部地域では学校などの希望に応じて、県の林業普及指導員が木育出前講座の実施をしています。講座内容の充実のため新規メニューの開発等を行っています。具体的には、排オイル缶等を活用したTLUDストーブによる花炭・炭制作や市販の子供用ソリを活用した簡易搬出体験の開発を行いました。

＜きっかけ＞
小学校等から県に対する木育出前講座の実施の要望は年々増加。一方で、林業普及指導員には限りがあり、また、メニューの実施については、クラフト作成が中心であり、フィールド等における体験メニューや森林・林業につながる体験メニューが少ない状況がネックになっていた。

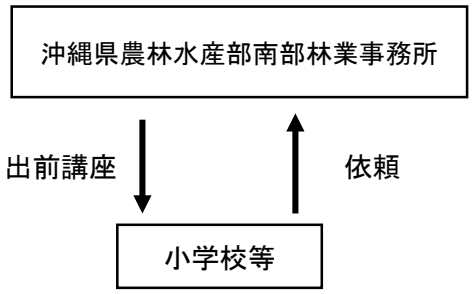
＜目的＞
林業普及指導員による木育出前講座を実施するだけでなく、木育体験が実施できる箇所を設定し活動を広げることにより、木材利用の意義や森林・林業の役割について学ぶ機会を創出し、県産木材の利用に向けた機運を醸成すること。

＜内容＞
・林業普及指導員による出前講座の実施
・新規メニューの開発
①排オイル缶等を活用したTLUDストーブによる花炭・炭製作メニュー

②市販の子供用ソリを活用した簡易搬出体験メニュー

・木育体験箇所の設定
要件とした簡易石窯を2箇所設定

＜実施体制＞



＜課題と対処＞
出前講座は、体験と座学を組み合わせることで木の良さや木材利用の意義を理解してもらうこととしている。また、工作等実施前には安全講習を行い、安全を確保した。

＜経費＞
経費：272千円
財源：林業普及指導事業費
参加費（材料費のみ）：300～500円/人

＜問い合わせ先＞
沖縄県農林水産部南部林業事務所 TEL ： 098-941-2583

＜ここに注目！＞
地道な取組ながら、年々木育出前講座の要請数が増えるなど、着実に成果をあげている取組。人員に限りがあるものの、林業普及指導員の応援を得て、さらに充実した内容にすべく新規メニューの開発を行ったり、木育推進拠点をつくることで木育活動を広げています。

第２部

—66 事例—

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
1	福島	おもちゃ鉄道ピノキオ駅	イベント	・木育施設を試験的に設置し木製品の集客力等を検証。 ・子育て世代が連日訪れ、幼児は木に触れ木製品のよさを感じ、大人は木製品が森林からの恵みであることを実感していた。	・木製品の集客力等を顕彰するため、会津田島駅ステーションプラザで木育施設を試験的に設置。 ・９日間で1,420人が来場。多くの来場があったが、木製品の売り上げは予定を若干下回り、まだ伸びしろがある状況。 ・木のおもちゃ等木製品は長く使える商品であることなどその価値を理解してもらう必要。	主体：南会津町 協力等：南会津町林業成長産業化推進会議のメンバー（町内の木製品製作時業者等） （南会津町農林課）	
2	福島	古殿町チェンソーアート文化祭	イベント	チェンソーアート文化祭を開催することで、チェンソーアート愛好家クラブへの県内外からの参加やテレビ取材などにより、林業や町のPRにつながった。	・林地残材（どんころ）の有効活用や林業の振興とPRのため、チェンソーアート文化祭を開催。平成29年度開催で10回目。 ・本取り組みがきっかけで立ち上げられた愛好クラブには県内外からメンバーが集まり、作品は道の駅でも販売されるなど、林地残材の有効活用や林業のPRにつながっている。 ・毎年招致する世界チャンピオンが作成する巨大干支のテレビ取材などにより町のPR にもつながっている。	主体：チェンソーアート文化祭実行委員会、古殿町 （古殿町産業振興課）	
3	栃木	とちぎ材の認知度向上・魅力アップのための木育活動	イベント	とちぎ材の利用拡大に向けた取組の一つとして木育活動を通じた普及啓発を実施。	・木育の普及、木の文化育成のため、林業・木材産業関係の諸団体と協力し、木材関連イベントへ出展。 ・子どもたちが木育遊具や玩具で遊べる、コミュニティカフェを実施（3回実施。1回あたり450人が参加）。	主体：えがおをつなぐとちぎ木育の会 協力等：とちぎ木づかいプランナー協会・栃木県木材業協同組合連合会、栃木県環境森林部 （栃木県木材業協同組合連合会）	
4	新潟	木とのふれあい「木育」出前講座	イベント	保育園での木育出前講座を実施。	・木のおもちゃを通じて、地域の木材とふれあう場を創出するため、保育園での木育出前講座を開催。 ・「森と木のはなし」「木のおもちゃとのふれあい（いろいろな積木を使った遊び）」を実施。 ・今後も地域の様々な人材を活用した「木育」を推進し、木のファンづくりを通じて、地域森林資源の地産地消の仕組みづくりを目指す。	主催：新潟県南魚沼地域振興局農林振興部 協力等：津南町森林組合十日町市、津南町 （新潟県南魚沼地域振興局農林振興部林業振興課）	
5	石川	「金沢の森育」推進事業　木育キャラバン	イベント	・金沢21世紀美術館で6日間の木育キャラバンを実施。 ・同時に地域産材を活用した木工作等のワークショップ等を開催。	・幼少期から森と木に関わることができる場を提供し、森林の大切さや魅力をPRする「金沢の森育推進事業」の一環で実施。 ・木育キャラバンと同時に、地元で森や木に関わる取組を行う団体等によるミニ講座や金沢の木を使ったオリジナル作品づくりやアートの体験を実施、3,300人が来場（入場料300円）。 ・子供達の安全確保等のためのスタッフに、幼児教育系大学に働きかけ、ボランティアを確保。	主催：金沢市 協力等：NPO法人角間里山みらい 金沢21世紀美術館［（公財）金沢芸術創造財団 ］ 東京おもちゃ美術館、オークヴィレッジ株式会社 北陸学院大学等 （金沢市森林再生課）	
6	石川	地域材利用の木材関係者等への支援事業	イベント	地元テレビ局イベントに参加して、一般消費者に県産材・地域材をPR、子供達にも木に触れること等で木の良さを理解してもらう。	・金沢駅もてなしドーム地下広場やテレビ金沢特設会場で、木工作体験や木育ダンス発表等を実施。（補助事業）、一般消費者に県産材・地域材をPR。 ・子供達に直接木に触れてもらうことや、ゆるキャラ「ウッディーくん」との関わりから、木の良さを理解してもらう。 ・木工工作への参加者が多かったため（3日間で約650人）、ブースの他に場所を設けることで安全に実施。	主体：石川県木材産業振興協会 協力等石川県木材青壮年会 （石川県木材産業振興協会）	
7	福井	木のおもちゃ博ふくい木育キャラバン	イベント	・子供の感性を豊かにし、周囲の人も充足感が味わえる遊びや場を提供する木育キャラバンを実施。 ・経費を入場料や出展料等で賄って実施。	・社会福祉法人めぐみこども園の「木育」をキーワードとした改修への反響の大きさから、木と情操教育を組み合わせた活動として木育キャラバンを実施。 ・3年続けて福井県産業会館で2日間の木育キャラバン「木のおもちゃ博」を開催。2年目からは約25,000人が参加。 ・経費（5,000千円）は、入場料、スポンサー収入、協賛金・出展料で賄う。 ・26店舗が「木育ワークショップ」を開催。	主体：一般社団法人モックイック	
8	愛知	きになる？！木のおへや	イベント	森林がほとんどない海部地区において、親子を対象とした木の良さを体感できるイベントを開催。合わせて愛知県の森林・林業に関する取組を知ってもらい木材の利用促進を図る。	・以前から取り組んでいた児童館等へのウッドプールの設置から発展し、「海南こどもの国秋まつり」の会場で木育イベントを実施。 ・家造り体験、ウッドプール、焼きペンコースター作り、木のクイズなど2日間で約400人が楽しみながら木の良さを体感。「あいち認証材」など愛知県の取組も普及した。 ・海部木材組合の家造り体験ブースや木のおもちゃ、かんなくずの無償提供や貸与で経費を節減。	主体：愛知県 協力等：海部木材組合 （海部農林水産事務所農政課）	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
9	京都	木育フォーラムin京都 木育こども縁日in壬生寺	イベント	・京都の木や伝統文化に触れる機会の提供として、木育フォーラムや木育こども縁日を開催。 ・壬生寺での開催や京都らしい題材のワークショップなど地域の特色を活かしたイベント。	・子供の頃から京都の木や伝統文化に触れることで豊かな感性を育む。 ・木育に関係する有識者の活動報告等を行う「木育フォーラム」を立命館大学で、翌日には壬生寺で「北山丸太のおじぞうさん」製作など京都産材を使ったワークショップ「こども縁日」を開催。 ・名古刹壬生寺での開催や京都らしいワークショップなど地域の特色を盛り込んだイベントに1,600名が参加。	主体：京都・木育はぐくみ委員会、京都府産木材利用推進協議会 協力：㈱ミームファクトリー 立命館大学 壬生寺 京エコロジーセンター （京都府木材組合連合会）	
10	兵庫	暮らしの中に木材を取り入れる運動	イベント	・県産材の普及活動として幼稚園、保育園等で木育キャラバンを実施。 ・木製学習机の導入にも取組。	・県産材の利用促進の普及活動の取組として、平成16年から木製学習机の導入、平成27年から木育キャラバンを実施。 ・木に触れる機会を提供する木育キャラバンは、イベント、幼稚園、保育園で開催（平成29年度19回開催、延べ1,576名が参加）。	主体：兵庫県 協力等：兵庫県木材協同組合連合会 （兵庫県林務課）	
11	和歌山	木の国わかやま木育キャラバンin和歌山市	イベント	・県下の多数の木材業者や森林組合等が協力して木育キャラバンを開催。 ・農林中金CSR事業。	・県内木材事業者3者とデザイン会社1社で「わかやま木育キャラバン実行委員会」を設立。 ・紀州材活用の幅を拡げる活動を促進するきっかけとして、県下の木材業者や森林組合等の他、農林中金や建築士会等が協力。 ・移動型「東京おもちゃ美術館」、紀州材関係者による「ものづくり体験」、幼稚園、保育所への積木の贈呈などを実施（2日間の開催で、約4,000名が参加）。	主体：わかやま木育キャラバン実行委員会 協力等：認定NPO法人芸術と遊び創造協会、和歌山県森林組合連合会、農林中央金庫、県下木材業者、株式会社湊組、和歌山県木材協同組合、東京海上日動火災保険　等 （マルカ林業株式会社）	
12	岡山	日本一のひのきの国・岡山「おかやま木材フェスティバル」	イベント	県産材の利用促進と子供達に木の良さ等の理解を深めるためのイベント開催。	・ヒノキの素材生産量が5年連続日本一を誇る西日本有数の国産材加工県で、県産材の利用促進と木育による将来の県産材利用拡大を図った。 ・イオンモール岡山において、木製カーや美術組子などの特色のある木製品や県産木製品の展示・販売、木育コーナーなどを配置し、2日間で約14,100人が参加した。	主体：一般社団法人岡山県木材組合連合会 協力等：岡山県、OHK岡山放送 （一般社団法人岡山県木材組合連合会）	
13	高知	高知県木造住宅フェア/もくもくランド	イベント	木造住宅の普及促進、木材利用の普及啓発を目的にフェアを開催。	・木造住宅の普及促進、木材利用の普及啓発を目的に、本フェアを開催。 ・県内の木材・木造住宅関連企業により、木造住宅のPRや木と触れあえる体験コーナー（木のおもちゃで遊ぶ、木工教室等）など、子供も楽しめる内容とした。	主体：高知県木材普及推進協会 協力等：高知県 （高知県木材普及推進協会）	
14	福島	塙町ウッドスタート事業	ウッドスタート	地域資源を生かして継続的に行う子育て支援として「ウッドスタート宣言」を実施。	・H28年から木育キャラバンin はなわを実施（約1,300人/年が参加）。 ・ウッドスタート宣言を行い、平成29 年4 月以降出生児へ県産ヒノキ材を使用した「花のつみき」を贈呈。 ・引き続き木育キャラバン、木育円卓会議、子育てサロンの木育化事業等の木育事業を展開する予定。	主体：塙町 協力等：製造業者等関係企業・団体、地元木工職人、子育て支援関係者 （塙町健康福祉課）	
15	福島	国見町ウッドスタート事業	ウッドスタート	子供の頃から町産材に触れることで森林や木との関わりを考える豊かな心を育てることを目的に「ウッドスタート宣言」を実施。	・H28年にウッドスタートを宣言。誕生祝い品を贈呈するほか、木育キャラバン、木育セミナーを実施。 ・誕生祝い品は町産材を使用し、地元木工職人が製作した「あつかしコロコロ」。 ・キャラバンは2日間で約2,100人が参加。 ・セミナーでは、参加者が木工職人に木材の使い方などの技術を学びながら木工品を制作（17名参加）。	主体：国見町 協力等：認定NPO法人芸術と遊び創造協会、地元木工職人 （国見町産業振興課）	
16	埼玉	ウッドスタート推進事業	ウッドスタート	子育て世代を中心に町の木や森林への親しみ・関心を高め、全世代が木を暮らしに取り入れる「木育」を推進するため「ウッドスタート宣言」を実施。 木育を推進するためのパンフレットを作成。	・学校施設の耐震改修等に合わせて内装木質化を進める手法「ときがわ方式」により、積極的な木の学校づくりを推進。 ・2村合併10 周年（平成28年）に「ウッドスタート宣言」を行い、1歳児に木製玩具「ときがわ木つみ木」を贈呈する「ウッドスタート推進事業」を開始。 ・情報誌「木育て、ときがわ」の作成、学校施設での木製学習机の導入、公共施設への木育コーナーの整備などにも取り組む。	主体：ときがわ町 協力等：製材業者、製品を制作する製造業者、東京おもちゃ美術館 （ときがわ町産業観光課）	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
17	千葉	木育推進事業	ウッドスタート	・病害に罹患したサンブスギを誕生祝い品に利用。 ・ウッドスタート宣言を行い、生涯木育を目指す。 ・成田空港で木育キャラバンを実施。	・スギ非赤枯性溝腐病の被害木（市内サンブスギ林の約8割が罹患）の利活用を検討する中で、「ウッドスタート宣言」の活動に注目し宣言を実施。被害木を利用した誕生祝い品の贈呈の他、木育円卓会議や成田空港スカイリウムでの木育キャラバンなどを実施。 ・サンブスギを利用し、木への親しみや木とのふれあいを通して、ゆりかご(ｳｯﾄﾞｽﾀｰﾄ)から墓場(ｳｯﾄﾞｴﾝﾄﾞ)まで、心豊かな人生を送るための「生涯木育」を推進する。	主体：山武市 協力等：東京おもちゃ美術館、ｴｺﾉﾐｯｸｶﾞｰﾃﾞﾆﾝｸﾞ推進協議会、木に携わる川上から川下までの団体、企業、NPO、グループ等 （山武市農林水産課）	
18	神奈川	おだわらウッドスタート宣言	ウッドスタート	・小田原市を含む周辺地域は、日本でも有数の木工技術を有し、全国でも指折りの木製おもちゃのまちでもある。 ・地域の特色を活かし、さらなる木育を推進するため「ウッドスタート宣言」を実施。	1．4か月児健康診断時に、保健師から木育コンセプトブック「森と木に包まれるおだわら」を受け取る。 2．市内の子育て支援施設等を利用して「誕生祝い品引換券」を受け取る。 3．ハルネ小田原「TAKUMI館」で「木育コンセプトブック」「誕生祝い品引換券」を提示することで、誕生祝い品を受け取ることができる。 おもちゃを受け取るまでの行程のたびに木育を意識。	主体：小田原市 協力等：ハルネ小田原「TAKUMI館」 （小田原市農政課）	
19	富山	誕生祝い品事業（木育バッグ制作）を通した子育て世代の小さなしごとづくり・交流促進の取組み	ウッドスタート	・「ウッドスタート宣言」を行い、3～4ヶ月検診時におもちゃをプレゼント。 ・子育て世代が立ち上げた団体が製作したエコバッグをおもちゃを持ち帰るためのバッグに採用。	・氷見の木で氷見の木工作家がつくった氷見だけの木のおもちゃをプレゼント。 ・ママ達が立ち上げた団体「HUGLAG」が製作したバッグ（タブノキと氷見市地図をモチーフにしたデザイン。受け取る子どもの足形入り。）に入れてプレゼント。 ・地方創生推進交付金を活用した木育事業（ひみの木しごと創生事業）で、木育ビジョンの策定、民間の木育推進組織の設立、拠点整備を目指す。	主体：氷見市 協力等：氷見市子育て支援課、氷見市健康課、氷見市緑化推進委員会 HUGLAB （氷見市花みどり推進室）	
20	滋賀	企業のウッドスタート宣言	ウッドスタート	・子供連れの来店者に快適に過ごしてもらうための木育広場を設置。 ・「ウッドスタート宣言」、社員が木育インストラクターを取得、地元イベント時に木育広場の開放等により企業として木育を推進。	・滋賀県内で展開するドコモショップ7店舗の内4店舗に木育広場を設置。 ・社員の子供誕生時にたまご積み木のプレゼント。 ・地元イベントで木育広場を開放し500人が来場。 ・木育サミットや地元広報誌等で企業による木育をPR。 ・社員が木育インストラクターの資格を取得。 ・インターンシップに木育の体験等に取り組む（新卒者の志望動機となっている）。	主体：株式会社GRiP'S	
21	鳥取	木を身近に感じる木育推進事業	ウッドスタート	「ウッドスタート宣言」を行い、新生児へ贈呈する町産材おもちゃの製作に当たり、地元高校におもちゃのアイデアや製作工程について協力依頼。	・"木育に取り組むまち智頭町"として平成29年3月にウッドスタート宣言。 木のおもちゃは、智頭町木材協会の女性部（木女会）が製作。製作にあたり、智頭農林高等学校の木材加工科の生徒、教師と連携。 身近に木のある暮らしを感じてもらうきっかけづくりとして木育キャラバンを実施（延べ330名が参加）。	主体：智頭町 協力等：智頭町木材協会、鳥取県立智頭農林高等学校、認定NPO法人芸術と遊び創造協会 （智頭町山村再生課）	
22	島根	ウッドスタート（邑南町誕生お祝い品贈呈）事業	ウッドスタート	・「日本一の子育て村」を目指している邑南町の充実した子育て施策の一環として木育に取組。 ・養護学校の生徒から、制作した木の積み木をプレゼントの提案がきっかけ。	・邑南町木育円卓会議を開催し、木育推進マニュアルを作成し、ウッドスタート事業を開始。 ・地元の高校生がデザインし、養護学校の生徒が作成した木の積み木を、1歳6ヶ月検診時に養護学校生徒から贈呈（平成29年度は70名に贈呈）。 ・木育インストラクターも育っており、木育の普及啓発を行っている。	主体：みずもく協同組合、東京おもちゃ美術館、島根県立石見養護学校、島根県立矢上高等学校、邑南町 （邑南町地域みらい課）	
23	群馬	学校机天板プロジェクト	学校机	・100年以上の歴史を持つ学校林から出る間伐材を使った学校机天板を、小中学生の入学時にプレゼント（平成30年度74枚）。 ・卒業まで使用し、卒業時に持ち帰ることで木材利用を身近に感じてもらう。	・川場小学校、川場中学校の生徒は、春秋に学校林の下刈りなど手入れ作業を実施。 ・学校林の間伐材でつくった机天板（はめ込み式）を、平成28年に「木材コンビナート事業（森林資源を活かした地域興し）」で村内に建設した製材所で作成。 ・入学式に天板をプレゼントされた生徒は、卒業まで自分のものとして使用し、卒業時に証書と共に持ち帰る。 ・生徒が扱いやすいよう学校と製材所で協議し、試作を重ねた。	主体：川場村 協力等：製材所：（株）ウッドビレッジ川場、川場小学校、川場中学校 （川場村　むらづくり振興課）	
24	神奈川	伊勢原市産スギ材を使った学習机とペン立て	学習机	・複数の森林組合の連携の元、神奈川県産スギを活用し、強度と耐久性を持たせるための特殊加工を施した学習机を小学校にプレゼント。 ・プレゼント時にペン立てキットを活用した木育活動を実施。	・市内スギ人工林の間伐材を活用した学習机の寄付を市教育委員会に申し入れ、受け入れた小学校の4～6年生（35名）に贈呈。 ・学習机は、、岐阜県森林組合連合会が作成している学習机と同様の特殊加工を施し強度と耐久性を持たせた。 ・贈呈時に、学習机と同じ間伐材で作成したペン立てキットを活用した木育活動を実施。子供達は香りや手触りを楽しんだ。 ・農林中央金庫のCSR活動費を活用。	主体：伊勢原市森林組合 協力等：神奈川県森林組合連合会、岐阜県森林組合連合会、地元製材所、他県業者等 （伊勢原市森林組合）	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
25	神奈川	津久井産天板交換等委託	学習机	相模原市教育委員会の事業で天板交換及び環境学習を実施。	・平成29年度～平成35年度において、旧津久井町4町の小学校全学年の児童の学習机天板を津久井産木材の天板に交換。 ・交換時に森林インストラクターから森林の現状や天板ができるまでの過程等の講習を受講。 ・神奈川県企業庁からの補助金を受けて実施。	主体：神奈川県相模原市教育委員会 委託先：一般社団法人さがみ湖森・モノづくり研究所 （相模原市教育委員会学務課）	
26	長野	天龍中・木育推進事業	学校机	・天龍中の生徒が、昔ながらの大鋸等を使った製材を学校で体験。 ・天龍村産のスギで下駄箱等を製作。 ・この取組を通じて、天龍村の森林・林業や木材についての知識を習得。	・天龍村では小学校で植樹や間伐等の体験を行っており、伐採された木が板になる過程も見たいという希望があり活動を実施。 ・地域の指導者のもと、大鋸による木挽きや簡易製材機による製材を体験。 ・天龍村産のスギを使って、プランター置き台や下駄箱を作成。	主体：天龍中学校	
27	岐阜	郡上木育推進モデル事業（YUMEITAプロジェクト）	学校机	・小学生が、郡上の森について学びながら、県内産ヒノキ間伐材を使用した学童机保護天板「YUMEITA」を制作。 ・「YUMEITA」には将来の夢や毎年の成長を記録。卒業時に本棚に入るサイズに加工して持ち帰る。	・YUMEITAプロジェクトを進めていたNPO法人と郡上市が協働。 ・総合学習で身近な森林の木材から保護天板になる過程等を学びながら「YUMEITA」を制作（延べ10校、217名）。 ・これまで講師をNPOや市の職員が行ってきたが、将来は各学校独自での開催を目指す。	主体：郡上市 協力等：NPO法人つくしん棒、市内小学校、小学校近隣の林業・木材産業関係者 （郡上市林務課）	
28	静岡	FSC森林認証啓発事業	学校机	小学校を対象に、FSC認証材木製学習机、椅子を導入し、FSC認証材のPRと利用の重要性を啓発。 導入時に委託業者と市職員が連携して木育講座を実施。	・浜松市のFSC認証取得（平成22年３月）をきっかけに、環境に配慮されたFSC認証材のPRや、使用することの大切さを啓発。 ・６年間（H23～28）で3モデル校の全ての机・椅子(1,008セット)をFSC材のものに交換。 ・教諭や保護者にもFSC認証や天竜材のPRが推進された。 ・H29年度も3校(1,825セット)に導入。	主体：浜松市 教育委員会 ・モデル小学校 （浜松市林業振興課）	
29	奈良	吉野中学校愛・学習机プロジェクト	学校机	・中学校で使用する机・椅子に地元産木材製品を導入することにより、生徒に木材利用の意義を啓発。 ・入学時に天板部を組立、卒業時は記念品として持ち帰る。	・平成21年の吉野中学校の新校舎の完成をきっかけに、地域おこしを行っている住民団体が、関連企業と協力し、吉野産ヒノキを活用した机と椅子を企画・制作。 ・中学生が入学前に天板部を組立、スチール脚に取付。卒業時に記念に天板を持ち帰り（4年間で280人が製作）。 ・民間活力を導入し、木育とふるさと教育、地場産業の活性化、山の環境改善、地域とのつながりの形成を実現している。	主体：吉野町教育委員会、Re:吉野と暮らす会 協力等：吉野町産業振興課木のまち推進室、大手オフィス家具メーカー） （吉野町教育委員会事務局）	
30	愛知	木育ブースの出展と出張木育インストラクター養成講座	人材育成	「額田製材業組合若手会」が住宅展に木育ブースを出展。 木育ブースでのマンパワー不足から、木育インストラクター養成講座を開催し、木育サポーターとして登録、活用。	・平成28年に「額田製材業組合若手会」を発足以降、製材供給先の拡大と木材利用の理解者を増やすため、住宅展で木育ブースを出展。 ・通常業務もあり、若手会のメンバーだけではマンパワーが不足。 ・東京おもちゃ美術館で行われている木育インストラクター養成講座を若手会が地元で開催、木育サポーターに27名が登録。 ・木育サポーターには岡崎市内の保育園等に木のおもちゃを届ける等の実践の場を提供。	主体：額田木材製材業組合若手会 協力等：西三河林材団体連合会、愛知県、木育サポーター （愛知県西三河農林水産事務所林務課）	
31	徳島	木育拠点の運営および木育リーダーの養成	人材育成	・条例に木育の推進を位置づけ。 ・木育推進のため「すぎの子木育広場」を設置。 ・木育広場の管理及び木育の普及啓発を行うリーダーを養成するための研修を実施。	・「木育の推進」を徳島県県産材利用促進条例で掲げ、県産材利用拡大の普及啓発として木育を推進。 ・直接木に触れ、木の魅力や優れた性質の理解を深めることができる「すぎの子木育広場」を20カ所（H30年度末現在）設置。 ・木育広場の管理および木育の普及啓発を行うリーダーを養成するための研修を実施し、28名のリーダーを養成した。	・徳島県 ・NPO法人子育て支援ネットワークとくしま ・すぎの子木育広場 （徳島県林業戦略課）	
32	大分	森林環境教育・木育促進事業	人材育成	・平成23年度から、木育キャラバンや幼稚園・保育園への木製おもちゃの貸し出し等を実施。 ・更なる木育の普及のために、木育インストラクターを育成。	・木育に関する基礎的な知識を学ぶ木育講座の実施（２日間4講座）。 ・木育講座受講者を対象に、現場での実践活動を体験する木育講座実践活動：専門家の指導のもと、幼児から小学生を対象に、積み木遊び・木製椅子づくりを実施。 ・木育講座＋実践活動に参加した者15名を、木育インストラクターとして認定。 ・木育講座に実践活動を取り入れたことで受講者の自信につながった。	主体：大分県 協力等：NPO法人アシスト・パル・オオイタ、木育講座受講者 （大分県林産振興室）	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
33	岩手	ハッピー・キッズ・ウッド事業	その他木材を利用した取組	・誕生祝い品の配布により、親子で木や森林に親しみを感じ、木材利用への関心を高めてもらう。 ・長く使ってもらうよう、置き方で椅子、テーブル、本棚に使えるものとした。	・全国でウッドスタートの取組が広がる中、町産材を利用した誕生祝い品配布を、雫石町独自のハッピー・キッズ・ウッド事業として平成28年度から開始。 ・町産材（小岩井農場産100年ヒノキ）を使った「スリーステップ椅子」を新生児の3～4ヶ月の集団検診の会場にてプレゼント（70～100個/年）。 ・安心して長く使える木製品として喜ばれている。	主体：雫石町 （雫石町農林課）	
34	岩手	雪谷川ダムフォリストパーク県産材活用事業	その他木材を利用した取組	・観光施設に町産材テーブル等を設置。 ・来園者に森林環境保全に対する意識の高揚を図る。	・観光施設「雪谷川ダムフォリストパーク・軽米」に地元産栗材を使用したテーブルと椅子を設置。 ・安全使用及び木製品の劣化防止のため、移動・収納の容易な折りたたみ、組立式のテーブル、椅子とした。	主体：軽米町 協力等：雪谷川ダムフォリストパーク・軽米 （軽米町産業振興課）	
35	岩手	・親子で木とのふれあい体験（親子木工教室） ・久慈地方木工工作コンクール	その他木材を利用した取組	・地域の林業・木材産業の関係者による木工工作活動。 ・小学生等に木材の特性を学んでもらうことで、木材利用の普及促進を目指す。	・木に触れる機会を提供し、木の魅力を知ってほしいという思いから林業・木材産業関係者で「久慈地方木材青壮年協議会」を組織。 ・小学生の親子を対象に森林環境教育と木工教室を行う「親子で木とのふれあい体験」や、夏休みの工作を利用したコンクール「久慈地方木工工作コンクール」を開催。 ・木工工作を通じて木材の持つ柔らかさや加工しやすさなどの特性を学ぶことで、木材利用の普及促進を目指す。	久慈地方木材青壮年協議会 岩手県木材青壮年協議会 県北教育事務所 等 （久慈地方木材青壮年協議会事務局）	
36	山形	地元産木質チップを利用した津波避難道整備	その他木材を利用した取組	・津波避難道の整備に木材チップを利用。 ・児童が整備することで、避難の大切さや木材の利活用方法を認識。	・津波浸水が想定される小学校の避難道整備に木材チップを使用。 ・児童自らが木材チップを撒くことで、避難の大切さを理解すると共に、木材チップを敷くことで歩きやすくなることを実感して、木材にはいろいろな利活用方法があることを認識。	主体：鶴岡市三瀬地区自治会 協力等：豊浦小学校、山形大学農学部、関係団体 （鶴岡市三瀬地区自治会）	
37	福島	森からの贈り物事業	その他木材を利用した取組	「森の町」「木の町」を南会津町内外にPRする手段として、町産材ヒノキを使用し町内で製造されたおもちゃを新生児に贈り、木製品のPRと赤ちゃん誕生を祝福する。	・町民が出生届けを提出すると、町から「森からの贈り物」として木のおもちゃをプレゼント。 ・幼少から木に触れることで、住民参画の森林づくりの意識を醸成。	主体：南会津町 （南会津町農林課）	
38	埼玉	秩父地域森林林業活性化協議会事業	その他木材を利用した取組	・地域産材の利用に関する意識の向上を図ることを目的に、1市4町を始めとした協議会を設立。 ・協議会で木育キャラバンを支援したことをきっかけに地域ぐるみで木育に取り組む。	・秩父市、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町、国・県、秩父地域の林業関係者で「秩父地域森林林業活性化協議会」を平成24年度に設立。 ・協議会では、森林保全・活用を目的とする将来性・持続性のある新たなビジネスプランなどに対する支援事業や秩父地域の森林・林業総合サイト「森の活人」運営などに加えて、木育イベント、木の玉プールの貸出等の木育事業を実施。	主体：秩父地域森林林業活性化協議会事業	
39	滋賀	木育活動支援事業	その他木材を利用した取組	・認定こども園、保育園等への市産材を使用したおもちゃプレゼント。 ・子供達が木に親しむだけでなく、保育士に木育の理解が得られた。	・長浜市森づくり計画アクションプランの木育推進を明記し認定こども園、保育園、幼稚園、子育て支援センターに木製おもちゃを贈呈。 ・おもちゃは市産材を使用し、加工は市内の製作業者に委託。 ・贈呈時に年輪を数えたりかんなくずに触れる体験等を実施。 ・毎年5施設ずつ配布する計画について配布施設数の拡大を検討。	主体：長浜市 協力等：おもちゃの製作会社 （長浜市森林整備課）	
40	広島	平成29年度地域貢献事業	その他木材を利用した取組	・インテリア科の高校生が、地域の幼稚園・保育所の必要とするインテリア家具を製作し贈呈。 ・子供達にとって安全で使いやすい家具となるよう、生徒自身が設計。	・幼稚園・保育園に通う子供達のために希望にあふれる環境を整えるとともに、広島県立府中東高等学校の生徒が、地域に貢献し、「役立っている、必要とされている」と感じるようになることを目的として実施。 ・府中市が地域の幼稚園・保育園との調整や経費の支援を実施。 ・今後はインテリア家具の新規贈呈に加え、過去に贈呈した家具の補修も行う予定。	主体：広島県立府中東高等学校 協力等：府中市 （広島県立府中東高等学校インテリア科）	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
41	香川	かがわ木育キャラバン	その他木材を利用した取組	子育て団体や各種イベントに木製おもちゃを無償貸出。	・子どもたちを中心に、木とふれあい、木と遊び、木の良さやその利用の意義を学んでもらうため、保育園・幼稚園などの子育て団体や各種イベントに、ひのきボールのプール・積み木などの木のおもちゃの無償貸出しを実施。 ・貸出回数：約30回／年 ・貸出団体：約30団体 子育て団体のほか、工務店等にも貸し出しており、木育の認知度が向上。	香川県産木材認証制度運営協議会	
42	福岡	博多駅周辺における木の建築・空間の実態調査	その他木材を利用した取組	博多駅周辺の木の建築・空間の特色を調査し、「木を活用している建築・空間に特化した博多駅周辺MAP」を作成。	・木を活用した建築・空間が多くみられることに注目し、博多駅周辺の木の建築・空間の特色をまち歩き、写真撮影等により調査。 ・「木を活用している建築・空間に特化した博多駅周辺MAP（HAKATA WOOD MAP）」を作成、まち歩きイベントを実施。 ・使用されている木材が国産材かどうか等の詳細の調査の実施や、他地域での木の空間調査等を検討したい。	麻生建築＆デザイン専門学校 GROWTH(建築サークル)	
43	長崎	新県庁舎での県産材家具の導入	その他木材を利用した取組	県産材家具のデザインコンペを行い、受賞作品は新県庁舎に設置。	・県内木工業者を対象とした県産材家具（テーブル、椅子、ベンチ、ソファー）のデザインコンペを実施。 ・受賞者の製作した家具を新県庁舎の1階エントランスに設置し、来庁者に快適な空間を提供。 ・来庁者に製作者の情報等を知らせるため、問合せ先のQRコードを記載。	主体：長崎県（県庁建設課） 協力等：長崎県（林政課）、県庁内の関係各課長等	
44	埼玉	川島町学校木育推進宣言	多様な木育	町内全ての小学校で木育を推進する「学校木育推進宣言」を実施。	・木育、森育を推進し、豊かな自然、環境づくりに向けた積極的な啓発活動等を推進するため、町内全ての小学校で木育を推進することとする「学校木育推進宣言」を実施。 ・「木を使った基地づくり体験」等を行う宿泊学習や、埼玉大学の教授や学生を招いて、しおりやキーホルダーを作成したり、木材を使った昔ながらの遊びを体験する木育体験活動を実施している。	主体：川島町教育委員会 協力等：町内小学校、埼玉大学 （川島町教育委員会教育総務課）	
45	香川	県産木材利用促進事業・木育推進事業	多様な木育	・平成21年から県産ヒノキの玩具・積木を幼稚園等に配布。 ・木育をさらに推進し、県産材需要拡大につなげるため、親子木工工作ワークショップ等を定期的に実施。	・県産木材の需要拡大を図るため、 〇県産ヒノキの玩具・積木を幼稚園、保育園、小児科等に配布（積み木：163施設　玩具：125施設） 〇親子木工工作ワークショップの開催 〇園児がヒノキ板に描いた絵を一枚のパネルに仕立てた作品の展示会の開催（50施設） により、子育て世代や将来的な木材消費者である子どもを対象に木育を推進することで県産材のPR。	主体：香川県 協力等：公益財団法人松平公益会（助成金の拠出） （香川県みどり整備課）	
46	長野	平成29年度木育推進事業　校舎内装木質化の実施	内装木質化	町内2つの小学校で児童が自ら地域材を用いて内装木質化に取組むと共に間伐や森林について学習。	・2校で、地元大工等の指導により、廊下窓下の壁面に地域のスギを利用した腰板張り等を実施。 ・合わせて間伐や森林について学習。 ・児童自らが内装木質化に取り組むとともに間伐や森林についての学習をすることで、自分達の生活と木の関わり等について楽しく学習できた。	主体：山之内町 （山ノ内町農林課）	
47	大阪	子育て施設木のぬくもり推進事業	内装木質化	幼稚園や保育所などの子育て施設が実施する、おおさか材を使用する内装木質化を、大阪府が直接補助を実施。	・子供の生育環境の充実と木育の促進のため、府内の幼稚園、保育所等の子育て施設の保育室、廊下等を木質化する事業を支援。 ・平成29年度は31カ所で実施。 ・木質化に取り組む施設を増やすため、内装木質化の取り組んだ施設の見学会等を実施。	主体：大阪府、木質化に取り組む保育園等 （大阪府みどり推進室）	
48	山形	認定こども園めごたま新園舎「めごたまのおうち」	ハード整備	認定こども園の開園にあたり、「地域内循環」を意識して、町産材を利用した新園舎の建築、地元の材料を利用した木工品づくり等に取組。	・「里山の暮らし」をテーマとする「認定こども園めごたま」の新園舎に金山スギをふんだんに使用。 ・薪ボイラーの導入、食事は木のうつわを使用、地元の材料を利用した木工品づくり等に取組。	主体：認定こども園めごたま 協力：金山町森林組合、金山町	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
49	熊本	小学5年生社会科向け副読本及び中学校技術家庭科向け副読本の作成・配布	副読本	学校教育における木育の推進を図るため、副教材と指導者用ガイドブックを作成・配布。	・学校教育における木育の推進を図るため、既存の科目の中での木に関する学びを支援する副教材を作成。 ・小学5年生及び中学1年生全員に配布。副読本に合わせて、授業実施案やワークシート等を掲載した指導者用ガイドブックも各学校に配布。	主体：熊本県 協力等：有識者 （熊本県林業振興課）	
50	東京	保育園・幼稚園等による木育推進事業	木育支援	都内に所在する民間の保育園や幼稚園等に木育活動を推進するための支援事業を実施。	・木育活動や人材育成等に要する経費の支援や木育を推進する施設の内装木質化、木製遊具、什器、外構等の整備の支援を実施。	主体：東京都 （東京都森林課）	
51	熊本	くまもとの木とふれあう木育推進事業	木育支援	木育を行う各種団体に補助することで、県民に木に触れる機会をより多く提供。	・木育活動を活性化し、県民が木に触れる機会の増加につなげるため、木育を行う各種団体を補助（上限50万）。 ・平成27年度から3年間で17団体に補助を実施。各団体では、県産材を用いたものづくりフェアや保育園等での木工ワークショップ、しいたけの駒打ち体験等を実施。	熊本県 補助事業者 （熊本県林業振興課）	
52	北海道	初任段階教員への木育研修	木育知識の普及	・平成28年3月の北海道森林づくり条例の改正において、新たに「木育の推進」を明記、平成29年3月改正の北海道森林づくり基本計画においても「木育の推進」を「森林資源の循環利用の推進」とともに施策推進の基本方向の1つとして位置づけ。 ・基本計画で重点的に取り組むとした「木育マイスター」と連携した木育活動」、「子育て世代とその子どもに対する木育活動」の具体的施策を推進し、木育を幅広い年代や地域の人々が意欲を持って取り組める息の長い道民運動として展開。	・教育関係機関と連携し、初任段階教員（3年次）を対象に行われる民間企業等研修の場を活用し、木育活動の理解者・実践者となるよう木育体験や情報交換を実施（木育理念、北海道の森林、森林施業体験、林業・林産工場見学、木育プログラムの作成と実践、木育等関係者との意見交換等）。	主体：北海道（各振興局森林室）、企業、NPO 協力：北海道教育委員会（教育局・義務教育課）、北海道森林管理局、企業、NPO等 （北海道森林室）	
53	東京	森のめぐみの保育環境セミナー	木育知識の普及	保育園・幼稚園の関係者に木育セミナーや現場見学ツアーを実施。保育園・幼稚園等の保育士等に木育を知って取り組んでもらうことで、都市部でも取り組める木育を普及。	・木育をさらに進めるため、平成27年度から木育を学びたい保育園・幼稚園等の関係者に年1回（約200名参加）セミナーを東京おもちゃ美術館を運営する法人と共催で実施。 ・希望者（先着20名）には、伐採現場、原木市場、加工所、木育実践園をめぐるツアーを実施。	主体：東京都、NPO法人芸術と遊び創造協会 （東京都森林課、芸術と遊び創造協会）	
54	石川	森林への理解を育む木育推進事業	木育知識の普及	幼児から大人までが木に親しみ、木の良さを学ぶとともに、森林への理解を育む木育を体験してもらうためのセミナーや木育出前講座を実施。	・木育セミナー（4回）：県内の保育、教育施設の職員、木育に関心のある人を対象（約100名）に、木育概論等の講義やクラフト製作等を実施。 ・木育出前講座：保育園・幼稚園（8カ所）に木育インストラクターやおもちゃアドバイザーが出向き、おもちゃ広場などを体験してもらう。	主体：石川県木材利用推進協議会 協力等：石川県 （石川県木材利用推進協議会）	
55	北海道	パートナー（父親）を対象とした子育て支援と木育教室	木工ワークショップ	・平成28年3月の北海道森林づくり条例の改正において、新たに「木育の推進」を明記、平成29年3月改正の北海道森林づくり基本計画においても「木育の推進」を「森林資源の循環利用の推進」とともに施策推進の基本方向の1つとして位置づけ。 ・基本計画で重点的に取り組むとした「木育マイスター」と連携した木育活動」、「子育て世代とその子どもに対する木育活動」の具体的施策を推進し、木育を幅広い年代や地域の人々が意欲を持って取り組める息の長い道民運動として展開。	・子供を生み育てる環境づくりを推進するため、父親を対象とした子育て教室と連携した木育教室の実施。 ①両親と乳幼児での来場を基本とし、母親と乳幼児が別室で待機（木のおもちゃやジョイントマット等用意し、小さな木育ひろばを演出）している間に、父親に対して木育教室・子育て教室を開催。 ②終了後、家族が集合し、作った木製品を子どもが使ったところ等を記念撮影。	主体：北海道（各振興局森林室）、市町村（子育て支援、林務担当課）、大学等教育機関、保育士等子育て関係機関 協力等：北海道（各振興局社会福祉課）、木育マイスター （北海道森林活用課）	
56	秋田	秋田杉間伐材や林地残材を活用した親子木工体験教室	木工ワークショップ	・家庭では体験できない木工工作を体験してもらうことで、木を使った豊かな暮らしの実現を目指す。 ・木工体験後も長く触れて遊んでもらえるような木工キットをオリジナルで作成している。	・地元森林組合や林業会社、保育園や市民活動支援団体等、産学官民の様々な分野で構成する団体「能代で木育を推進する会」（会員数約30名）として、木育活動を実施。 ・地域の製材工場等の協力を得て体験キットを準備し、ワークショップやセミナー（平成29年度5回）を開催。 ・刃物によるけがも考えられるため、講師等に緊急時の対応方法をレクチャーし、救急セットを準備している。	能代で木育を推進する会	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
57	福島	平成29 年度森林環境交付金事業	木工ワークショップ	木工体験を通じて木の知識を身につけ、森林を考える機会とする。木工体験で作成する木製品は家庭で使えるものとしている。	・毎年塙町で開催する産業祭の実行委員会の依頼を受け、塙町木工組合が産業祭で木工教室を実施。 ・木工体験を通じて木の知識を身につけ、森林を考える機会とする。 ・小学生75名とその家族が参加（平成29年度）し、作成した「トイレットペーパー入れ」「調味料入れ」「収納ボックス」は家庭で活用されている。	塙町 （塙町まち振興課）	
58	福島	森林環境交付金事業（基本枠）・森林環境学習	木工ワークショップ	森林や木材に触れる機会が少なくなったことから、小中学生を対象に行う森林環境学習の中で木工クラフトを体験。	・会津地方の豊かな森林を守り育て時代に引き継ぐ事などを目的に小中学生を対象とした森林環境学習を実施。 ・19回の森林環境学習の実施の中、木工クラフト体験を7回実施（約300名が体験）。低学年は森林散策などで拾った小枝や葉を使ってキーホルダーやアクセサリー等を、高学年は市販キットを活用してコルクボードを作成。	主体：町内小中学校、会津美里町 （会津美里町農林課）	
59	新潟	地元のスギ間伐材を用いた森林・林業教育の実施	木工ワークショップ	・小中学生を対象に森林・林業教育を行う中で木工教室を実施。 ・副読本を作成して森から木材利用までを紹介。	・小中学生を対象に森林・林業教育を行う中で、本立て、ベンチ、コースター作り等の木工教室を実施。 ・平成29年度は木工体験を含む森林・林業教育を15回実施。 ・「森林とわたしたちのくらし」という小中学生を対象とした副読本を平成26年度に作成し、森林の効用や森林から得た木材がどのように使われているかなどを紹介。	主体：新潟北部地域林業振興協議会 協力等：岩船・村上緑化推進連絡会議、新潟北部地域林業振興協議会、教育委員会、小中学校、森林組合　等 （新潟北部地域林業振興協議会）	
60	山梨	親子木工教室	木工ワークショップ	親子のふれあいの場の提供、木材の特質についての理解、県産材のPRを目的とした親子木工教室を開催。	・親子のふれあいの場の提供や木材の特質についての理解を促すため、親子木工教室を年4回長期休みを利用して市内児童館で開催。 ・木工体験の前に木材の特質等についての講義を実施。 ・小学生以下の児童とその保護者190名が参加（平成29年度）。	主体：甲斐市 協力：山梨県木材協会 （甲斐市子育て支援課）	
61	山梨	クラフト・木工教室	木工ワークショップ	気軽に県産木材と触れ合う場を山梨県森林総合研究所に設置、クラフト・木工教室を実施。	・県内の児童が、気軽に県産木材と素朴な触れ合いができるような場を提供するため「森の教室運営委員会」が年10回程度森の教室内の工作室等で木工教室を開催。 ・小学生の親子から大人向けまであり、平成29年度は延べ200名弱の参加があり、木材の利用方法を学習するとともに、森林についての理解を深めた。	主体：山梨県森林総合研究所森の教室運営委員会 協力：山梨県森林総合研究所、NPO法人 （山梨県森林総合研究所森の教室運営委員会）	
62	三重	森と木材のふれあい事業	木工ワークショップ	小中学校の図工や技術の時間で木工教室を開催。 制作する工作キットは教員と検討。	・亀山市と亀山木材産業協同組合が連携して、木材について学び、ふれあう機会を市内小中学生に提供。 ・小中学校で活用できる木工製品を教員と検討、工作キット化（マガジンラック、プランター等）。 ・図工や技術の時間に亀山の木を活用した木工教室を開催。 ・講師は市と組合が担当。	主体：亀山市 協力等：亀山木材産業協同組合、市内小中学校 （亀山市森林林業室）	
63	滋賀	はじめての木育	木工ワークショップ	・園児が木とふれあうはじめての活動としてノコギリを使ったヒノキの輪切り等を体験。 ・道具の使い方マニュアルを作成し安全に実施。	・甲賀市内の幼稚園・保育園で、ヒノキの紹介やノコギリや紙やすりを使った活動を実施。 ・木とふれあう入り口として道具を使うことにポイントを置き、使い方のマニュアルを作って指導者が共有する等安全に配慮して実施。 ・園児に木とのふれあいを楽しんでもらうとともに、保育士や保護者に木育への理解が得られた。	主体：滋賀県甲賀森林整備事務所 協力等：甲賀市立みなくちこどもの森、保育士、普及協力員（環境教育支援ボランティア） （甲賀森林整備事務所）	
64	長崎	ながさきエコライフフェスタ	木工ワークショップ	楽しく県産木材に親しむ木工体験としてカホンづくりとその演奏会を実施。	・親子で県産ヒノキを楽しめる活動としてカホンづくりとその演奏会を実施。 ・県産ヒノキの家型貯金箱作り体験。 ・参加者は、親子で楽しく木にふれながら、大変喜ばれていた。	主体：長崎県地域材供給倍増協議会 協力等：作成指導するインストラクター （長崎県林政課）	

番号	都道府県	事例名	分類	ポイント	内容	実施体制（担当）	
65	熊本	くまもとの木育体験事業	木工ワークショップ	・県内４地域で「みんなで木育！くまもとものづくりフェア」を開催。 ・円形木琴、ミニカーなど県産材を用いた10種類以上のものづくりを提供。	・平成22年度から、毎年県内４地域で開催。 ・H29年度約1,900名が参加。延べ240名のスタッフで運営。 ・リピーターも多く、県民が木に親しみを覚える契機となっている。 ・保険加入を行うとともに、危険性の高い作業を伴うブースには重点的な人員配置を行うなどして、安全管理に努めている。	主体：熊本県 協力等：熊本県技術教育研究会（TIS）、熊本大学学生、熊本ものづくり塾などの団体 （熊本県林業振興課）	
66	沖縄	木育イベント開催	木工ワークショップ	・沖縄県産材の魅力や用途を県民に普及・PRするため木工体験を主体としてイベントを開催。 ・参加者からそれぞれのプログラムの参加費用を徴収。	・木工体験を主体としたイベントに子ども、大人合わせて約300名が参加。 ・8事業者がそれぞれでプログラムを提供し、参加者からは参加費用（500円～1，500円程度）を徴収。 ・万が一の怪我に対応するため看護師派遣を実施、イベント保険にも加入。	主体：沖縄県 協力等県内木工作家や森林・林業者（８業者） （沖縄県森林管理課）	

林野庁　林政部　木材利用課　消費対策班

〒100－8952　東京都千代田区霞が関1－2－1
お問い合わせ　：　03－6744－2298

本資料は、林野庁ホームページに掲載しております。
http://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/mokuiku.html